

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
1	前見返		(添付別紙 1 参照)	(添付別紙 2 参照)
2	前見返		(添付別紙 1 参照)	(添付別紙 2 参照)
3	前見返		(添付別紙 1 参照)	(添付別紙 2 参照)
4	39	左段 5-7	価があたえられていた時期のほうが長い。 <u>古代ギリシャでは</u> 、 <u>民主主義(民主政)</u> は君主政や貴族政よりも劣ると <u>考えられていた</u> 。	価があたえられていた時期のほうが長い。 <u>民主主義発祥の地とされる古代ギリシャでも</u> 、 <u>哲学者たちの多くは</u> 、 <u>民主主義(民主政)</u> は君主政や貴族政よりも劣ると <u>考えていた</u> 。
5	50	左下 「判例」 内 12-13	<p>◆堀木訴訟 障害福祉年金と児童扶養手当の併給を禁じた児童手当法の規定は憲法第25条などに違反するとして提訴。原告は第一審で勝訴したが、第二審は敗訴。最高裁は併給について国会による裁量権を認め、原告敗訴の判決を下した(1982年)。なお、第一審のあとで併給を認める法改正がなされたが、最高裁判決後、法律はもとにもどされた。</p>	<p>◆堀木訴訟 障害福祉年金と児童扶養手当の併給を禁じた児童扶養手当法の規定は憲法第25条などに違反するとして提訴。第一審は原告勝訴、第二審は原告敗訴。最高裁は併給について国会による裁量権を認め、原告敗訴の判決を下した(1982年)。なお、第一審のあとで併給を認める法改正がなされたが、最高裁判決後、法律はもとにもどされた。</p>
6	52	右段 12-13	ヤップ指数(Gender Gap Index, GGI) が146か国中 <u>116位</u> <u>(2022年)</u> と先進国の中でも最低水準である。	ヤップ指数(Gender Gap Index, GGI) が146か国中 <u>125位</u> <u>(2023年)</u> と先進国の中でも最低水準である。

番号	訂正箇所		原文	訂正文																																																																																																												
	ページ	行																																																																																																														
7	52	下表 3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>国名</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>アイスランド</td><td>0.908</td></tr> <tr><td>2</td><td>フィンランド</td><td>0.860</td></tr> <tr><td>3</td><td>ノルウェー</td><td>0.845</td></tr> <tr><td>4</td><td>ニュージーランド</td><td>0.841</td></tr> <tr><td>5</td><td>スウェーデン</td><td>0.822</td></tr> <tr><td>6</td><td>ルワンダ</td><td>0.811</td></tr> <tr><td>7</td><td>ニカラグア</td><td>0.810</td></tr> <tr><td>8</td><td>ナミビア</td><td>0.807</td></tr> <tr><td>9</td><td>アイルランド</td><td>0.804</td></tr> <tr><td>10</td><td>ドイツ</td><td>0.801</td></tr> <tr><td>15</td><td>フランス</td><td>0.791</td></tr> <tr><td>22</td><td>イギリス</td><td>0.780</td></tr> <tr><td>27</td><td>アメリカ</td><td>0.769</td></tr> <tr><td>99</td><td>韓国</td><td>0.689</td></tr> <tr><td>102</td><td>中国</td><td>0.682</td></tr> <tr><td>116</td><td>日本</td><td>0.650</td></tr> <tr><td>135</td><td>インド</td><td>0.629</td></tr> </tbody> </table> <p>* 146か国中の順位 [2022年]</p>	順位	国名	値	1	アイスランド	0.908	2	フィンランド	0.860	3	ノルウェー	0.845	4	ニュージーランド	0.841	5	スウェーデン	0.822	6	ルワンダ	0.811	7	ニカラグア	0.810	8	ナミビア	0.807	9	アイルランド	0.804	10	ドイツ	0.801	15	フランス	0.791	22	イギリス	0.780	27	アメリカ	0.769	99	韓国	0.689	102	中国	0.682	116	日本	0.650	135	インド	0.629	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>国名</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>アイスランド</td><td>0.912</td></tr> <tr><td>2</td><td>ノルウェー</td><td>0.879</td></tr> <tr><td>3</td><td>フィンランド</td><td>0.863</td></tr> <tr><td>4</td><td>ニュージーランド</td><td>0.856</td></tr> <tr><td>5</td><td>スウェーデン</td><td>0.815</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ</td><td>0.815</td></tr> <tr><td>7</td><td>ニカラグア</td><td>0.811</td></tr> <tr><td>8</td><td>ナミビア</td><td>0.802</td></tr> <tr><td>9</td><td>リトアニア</td><td>0.800</td></tr> <tr><td>10</td><td>ベルギー</td><td>0.796</td></tr> <tr><td>15</td><td>イギリス</td><td>0.792</td></tr> <tr><td>40</td><td>フランス</td><td>0.756</td></tr> <tr><td>43</td><td>アメリカ</td><td>0.748</td></tr> <tr><td>105</td><td>韓国</td><td>0.680</td></tr> <tr><td>107</td><td>中国</td><td>0.678</td></tr> <tr><td>125</td><td>日本</td><td>0.647</td></tr> <tr><td>127</td><td>インド</td><td>0.643</td></tr> </tbody> </table> <p>* 146か国中の順位 [2023年]</p>	順位	国名	値	1	アイスランド	0.912	2	ノルウェー	0.879	3	フィンランド	0.863	4	ニュージーランド	0.856	5	スウェーデン	0.815	6	ドイツ	0.815	7	ニカラグア	0.811	8	ナミビア	0.802	9	リトアニア	0.800	10	ベルギー	0.796	15	イギリス	0.792	40	フランス	0.756	43	アメリカ	0.748	105	韓国	0.680	107	中国	0.678	125	日本	0.647	127	インド	0.643
順位	国名	値																																																																																																														
1	アイスランド	0.908																																																																																																														
2	フィンランド	0.860																																																																																																														
3	ノルウェー	0.845																																																																																																														
4	ニュージーランド	0.841																																																																																																														
5	スウェーデン	0.822																																																																																																														
6	ルワンダ	0.811																																																																																																														
7	ニカラグア	0.810																																																																																																														
8	ナミビア	0.807																																																																																																														
9	アイルランド	0.804																																																																																																														
10	ドイツ	0.801																																																																																																														
15	フランス	0.791																																																																																																														
22	イギリス	0.780																																																																																																														
27	アメリカ	0.769																																																																																																														
99	韓国	0.689																																																																																																														
102	中国	0.682																																																																																																														
116	日本	0.650																																																																																																														
135	インド	0.629																																																																																																														
順位	国名	値																																																																																																														
1	アイスランド	0.912																																																																																																														
2	ノルウェー	0.879																																																																																																														
3	フィンランド	0.863																																																																																																														
4	ニュージーランド	0.856																																																																																																														
5	スウェーデン	0.815																																																																																																														
6	ドイツ	0.815																																																																																																														
7	ニカラグア	0.811																																																																																																														
8	ナミビア	0.802																																																																																																														
9	リトアニア	0.800																																																																																																														
10	ベルギー	0.796																																																																																																														
15	イギリス	0.792																																																																																																														
40	フランス	0.756																																																																																																														
43	アメリカ	0.748																																																																																																														
105	韓国	0.680																																																																																																														
107	中国	0.678																																																																																																														
125	日本	0.647																																																																																																														
127	インド	0.643																																																																																																														
8	52	右下 グラフ 4	<p>The graph plots four countries on a diamond-shaped coordinate system defined by axes: Economic (top), Health (left), Education (right), and Political Freedom (bottom). The vertical axis ranges from 0 to 1. The horizontal axis ranges from 0 to 1. A blue line connects the points for Iceland, showing it has high values in all four categories. An orange line connects the points for Japan, showing it has lower values, particularly in Political Freedom. A dashed grey line represents the average for each category.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国</th> <th>経済</th> <th>健康</th> <th>教育</th> <th>政治</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アイスランド</td><td>0.8</td><td>0.6</td><td>0.4</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>日本</td><td>0.6</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>平均</td><td>0.7</td><td>0.5</td><td>0.3</td><td>0.2</td></tr> </tbody> </table> <p>※0から1までの値をとり、1に近いほどギャップが小さいことを示す。</p>	国	経済	健康	教育	政治	アイスランド	0.8	0.6	0.4	0.2	日本	0.6	0.4	0.2	0.1	平均	0.7	0.5	0.3	0.2	<p>The graph plots the same four countries on the same diamond-shaped coordinate system. The blue line for Iceland shows slight improvements in its scores. The orange line for Japan shows more significant improvements, particularly in Political Freedom, moving closer to the average. The dashed grey line for the average remains relatively stable.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国</th> <th>経済</th> <th>健康</th> <th>教育</th> <th>政治</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アイスランド</td><td>0.8</td><td>0.6</td><td>0.4</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>日本</td><td>0.6</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>平均</td><td>0.7</td><td>0.5</td><td>0.3</td><td>0.2</td></tr> </tbody> </table> <p>※0から1までの値をとり、1に近いほどギャップが小さいことを示す。</p>	国	経済	健康	教育	政治	アイスランド	0.8	0.6	0.4	0.2	日本	0.6	0.4	0.2	0.1	平均	0.7	0.5	0.3	0.2																																																																				
国	経済	健康	教育	政治																																																																																																												
アイスランド	0.8	0.6	0.4	0.2																																																																																																												
日本	0.6	0.4	0.2	0.1																																																																																																												
平均	0.7	0.5	0.3	0.2																																																																																																												
国	経済	健康	教育	政治																																																																																																												
アイスランド	0.8	0.6	0.4	0.2																																																																																																												
日本	0.6	0.4	0.2	0.1																																																																																																												
平均	0.7	0.5	0.3	0.2																																																																																																												
9	57	下図	(添付別紙 3 参照)	(添付別紙 4 参照)																																																																																																												

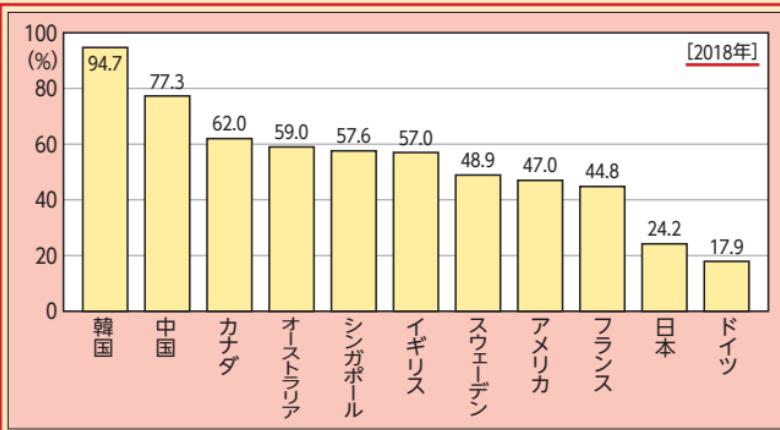
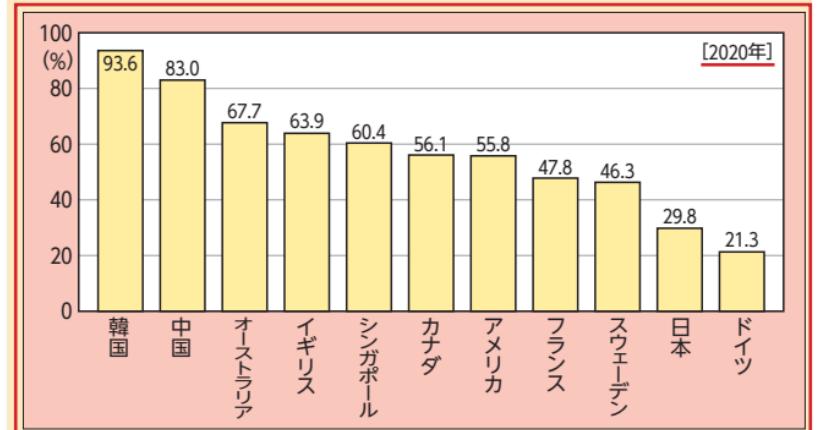
番号	訂正箇所		原文	訂正文																																																																																				
	ページ	行																																																																																						
10	63	右上 グラフ 4	<table border="1"> <caption>[2022年度]</caption> <thead> <tr> <th>収入</th> <th>額 (十億円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地方税</td> <td>45.5%</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>使用料・手数料</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>国庫支出金</td> <td>16.4</td> </tr> <tr> <td>地方交付税</td> <td>19.9</td> </tr> <tr> <td>地方特例交付金</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>地方譲与税</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>投資的経費</td> <td>13.2</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>12.6</td> </tr> <tr> <td>給与関係経費</td> <td>22.0%</td> </tr> <tr> <td>一般行政経費</td> <td>45.8</td> </tr> <tr> <td>歳入総額</td> <td>905 918億円</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>[2023年度]</caption> <thead> <tr> <th>収入</th> <th>額 (十億円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地方税</td> <td>46.6%</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>7.4</td> </tr> <tr> <td>使用料・手数料</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>国庫支出金</td> <td>16.3</td> </tr> <tr> <td>地方交付税</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>地方特例交付金等</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>地方譲与税</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7.4</td> </tr> <tr> <td>投資的経費</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>12.3</td> </tr> <tr> <td>給与関係経費</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>一般行政経費</td> <td>45.7</td> </tr> <tr> <td>歳入総額</td> <td>920 350億円</td> </tr> </tbody> </table>	収入	額 (十億円)	地方税	45.5%	雑収入	4.9	地方債	8.4	使用料・手数料	1.7	国庫支出金	16.4	地方交付税	19.9	地方特例交付金	0.3	地方譲与税	2.9	その他	6.4	投資的経費	13.2	公債費	12.6	給与関係経費	22.0%	一般行政経費	45.8	歳入総額	905 918億円	収入	額 (十億円)	地方税	46.6%	雑収入	5.0	地方債	7.4	使用料・手数料	1.7	国庫支出金	16.3	地方交付税	20.0	地方特例交付金等	0.2	地方譲与税	2.8	その他	7.4	投資的経費	13.0	公債費	12.3	給与関係経費	21.6%	一般行政経費	45.7	歳入総額	920 350億円	<table border="1"> <caption>歳出総額 905 918億円</caption> <thead> <tr> <th>歳出</th> <th>額 (十億円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般行政経費</td> <td>45.8</td> </tr> <tr> <td>給与関係経費</td> <td>22.0%</td> </tr> <tr> <td>投資的経費</td> <td>13.2</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>12.6</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>歳出総額 920 350億円</caption> <thead> <tr> <th>歳出</th> <th>額 (十億円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般行政経費</td> <td>45.7</td> </tr> <tr> <td>給与関係経費</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>投資的経費</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>12.3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7.4</td> </tr> </tbody> </table>	歳出	額 (十億円)	一般行政経費	45.8	給与関係経費	22.0%	投資的経費	13.2	公債費	12.6	その他	6.4	歳出	額 (十億円)	一般行政経費	45.7	給与関係経費	21.6%	投資的経費	13.0	公債費	12.3	その他	7.4
収入	額 (十億円)																																																																																							
地方税	45.5%																																																																																							
雑収入	4.9																																																																																							
地方債	8.4																																																																																							
使用料・手数料	1.7																																																																																							
国庫支出金	16.4																																																																																							
地方交付税	19.9																																																																																							
地方特例交付金	0.3																																																																																							
地方譲与税	2.9																																																																																							
その他	6.4																																																																																							
投資的経費	13.2																																																																																							
公債費	12.6																																																																																							
給与関係経費	22.0%																																																																																							
一般行政経費	45.8																																																																																							
歳入総額	905 918億円																																																																																							
収入	額 (十億円)																																																																																							
地方税	46.6%																																																																																							
雑収入	5.0																																																																																							
地方債	7.4																																																																																							
使用料・手数料	1.7																																																																																							
国庫支出金	16.3																																																																																							
地方交付税	20.0																																																																																							
地方特例交付金等	0.2																																																																																							
地方譲与税	2.8																																																																																							
その他	7.4																																																																																							
投資的経費	13.0																																																																																							
公債費	12.3																																																																																							
給与関係経費	21.6%																																																																																							
一般行政経費	45.7																																																																																							
歳入総額	920 350億円																																																																																							
歳出	額 (十億円)																																																																																							
一般行政経費	45.8																																																																																							
給与関係経費	22.0%																																																																																							
投資的経費	13.2																																																																																							
公債費	12.6																																																																																							
その他	6.4																																																																																							
歳出	額 (十億円)																																																																																							
一般行政経費	45.7																																																																																							
給与関係経費	21.6%																																																																																							
投資的経費	13.0																																																																																							
公債費	12.3																																																																																							
その他	7.4																																																																																							
11	71	上図3 および キャプシ ョン	(添付別紙5参照)	(添付別紙5参照)																																																																																				

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
12	71	右グラフ 5	<p>提出法案数(件)</p> <p>法案成立率(%)</p> <p>内閣提出法案 議員提出法案</p> <p>議員提出法案成立率</p> <p>2006 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 年</p>	<p>提出法案数(件)</p> <p>法案成立率(%)</p> <p>内閣提出法案 成立率</p> <p>議員提出法案 成立率</p> <p>2006 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 年</p>
13	72	左上図 1 および キャプシ ョン	<p>国王</p> <p>任命</p> <p>推せん</p> <p>首相 内閣 枢密院</p> <p>信任・不信任 連帯責任・解散</p> <p>下院(庶民院) 任期5年(解散あり) 650名</p> <p>上院(貴族院) 任期・定員 不定</p> <p>議会</p> <p>最高裁判所</p> <p>高等裁判所</p> <p>下級裁判所</p> <p>選挙</p> <p>国民(18歳以上に選挙権)</p>	<p>国王</p> <p>任命</p> <p>推せん</p> <p>首相 内閣 枢密院</p> <p>信任 連帯責任</p> <p>解散</p> <p>下院(庶民院) 任期5年 650名</p> <p>上院(貴族院) 任期・定員 不定</p> <p>議会</p> <p>最高裁判所</p> <p>高等裁判所</p> <p>下級裁判所</p> <p>選挙</p> <p>国民(18歳以上に選挙権)</p>

①イギリスの政治のしくみ 国王を国家元首とする立憲君主制のもと、議院内閣制を採用している。かつては内閣による解散権が広く認められていたが、2011年の法律で内閣の解散権が大幅に制約されることになった。内閣は下院による不信任決議が可決された場合のみ解散権行使することが可能で、下院は総議員の3分の2以上の賛成で解散(自主解散)することができるようになった。

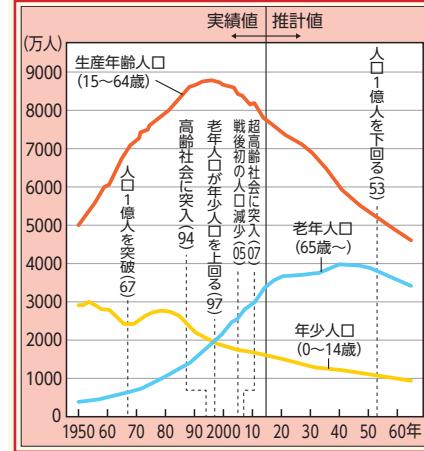
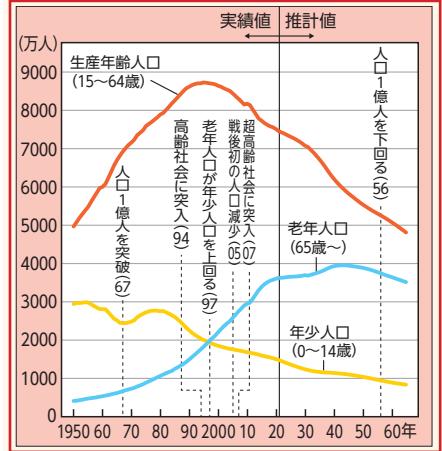
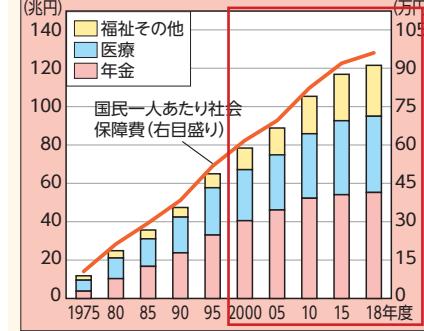
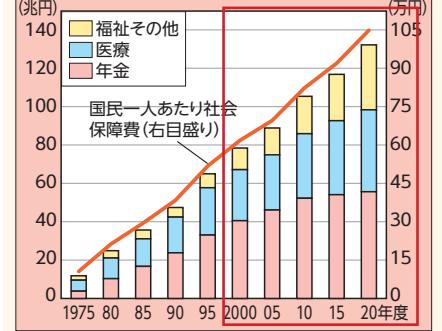
①イギリスの政治のしくみ 国王を国家元首とする立憲君主制のもと、議院内閣制を採用している。上院議員が非民選であるのに対し、下院議員は小選挙区制で選出される。2009年に最高裁判所が設置され、それまで上院がになっていた最高司法機関としての機能は廃止された。なお、内閣の解散権は、一時期(2011～22年)法律で大幅に制約されていた。

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
14	75	右上図 4 および キャプション	<p>投票は小選挙区と比例代表の二票制で行われる。 数字は小選挙区の都道府県別選挙区数</p> <p>④衆議院議員選挙の議員定数 小選挙区の区割りや比例代表の定数は、国勢調査で調べた人口をもとに、原則10年ごとに見直される。2022年以降の見直しでは、人口比がより反映される「アダムズ方式」が導入される。 なぜ「アダムズ方式」が導入されるのだろうか。</p>	<p>投票は小選挙区と比例代表の二票制で行われる。 数字は小選挙区の都道府県別選挙区数</p> <p>④衆議院議員選挙の議員定数 小選挙区の区割りや比例代表の定数は、国勢調査で調べた人口をもとに、原則10年ごとに見直される。2022年以降の見直しでは、人口比がより反映される「アダムズ方式」が導入されている。 なぜ「アダムズ方式」が導入されるのだろうか。</p>
15	122	左上 グラフ1	(添付別紙5参照)	(添付別紙5参照)
16	124-125	上年表	(添付別紙6参照)	(添付別紙6参照)
17	125	上年表	(添付別紙6参照)	(添付別紙6参照)
18	127	右グラフ 4		

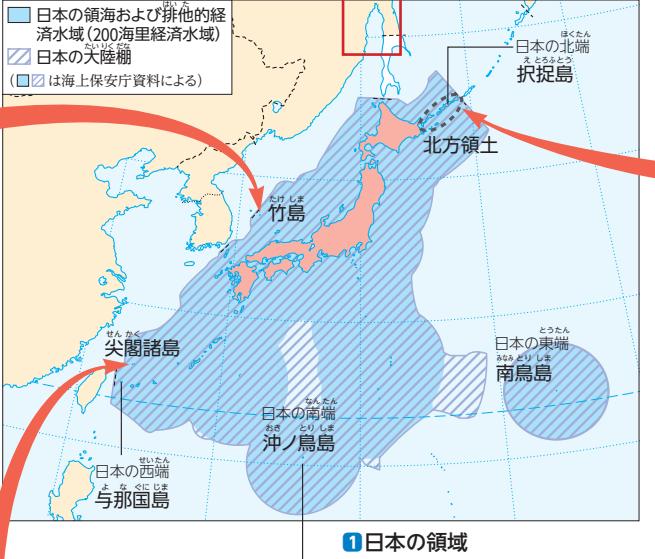
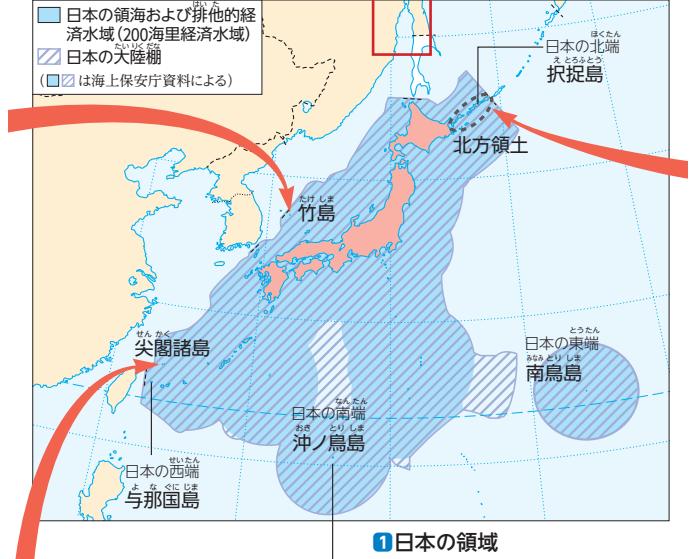
番号	訂正箇所		原文	訂正文																																																
	ページ	行																																																		
19	131	17-18	金融市場を活性化し効率化させる <u>半面</u> , 金融システムの規律をそこない,	金融市場を活性化し効率化させる <u>反面</u> , 金融システムの規律をそこない,																																																
20	132	右段 14	に占めるキャッシュレス決済の比率は <u>24.2%</u> (2018年)にと	に占めるキャッシュレス決済の比率は <u>29.8%</u> (2020年)にと																																																
21	132	右下 グラフ 3	 <table border="1"> <caption>[2018年]</caption> <thead> <tr> <th>国</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>韓国</td><td>94.7</td></tr> <tr><td>中国</td><td>77.3</td></tr> <tr><td>カナダ</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>オーストラリア</td><td>59.0</td></tr> <tr><td>シンガポール</td><td>57.6</td></tr> <tr><td>イギリス</td><td>57.0</td></tr> <tr><td>スウェーデン</td><td>48.9</td></tr> <tr><td>アメリカ</td><td>47.0</td></tr> <tr><td>フランス</td><td>44.8</td></tr> <tr><td>日本</td><td>24.2</td></tr> <tr><td>ドイツ</td><td>17.9</td></tr> </tbody> </table>	国	比率 (%)	韓国	94.7	中国	77.3	カナダ	62.0	オーストラリア	59.0	シンガポール	57.6	イギリス	57.0	スウェーデン	48.9	アメリカ	47.0	フランス	44.8	日本	24.2	ドイツ	17.9	 <table border="1"> <caption>[2020年]</caption> <thead> <tr> <th>国</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>韓国</td><td>93.6</td></tr> <tr><td>中国</td><td>83.0</td></tr> <tr><td>オーストラリア</td><td>67.7</td></tr> <tr><td>イギリス</td><td>63.9</td></tr> <tr><td>シンガポール</td><td>60.4</td></tr> <tr><td>カナダ</td><td>56.1</td></tr> <tr><td>アメリカ</td><td>55.8</td></tr> <tr><td>フランス</td><td>47.8</td></tr> <tr><td>スウェーデン</td><td>46.3</td></tr> <tr><td>日本</td><td>29.8</td></tr> <tr><td>ドイツ</td><td>21.3</td></tr> </tbody> </table>	国	比率 (%)	韓国	93.6	中国	83.0	オーストラリア	67.7	イギリス	63.9	シンガポール	60.4	カナダ	56.1	アメリカ	55.8	フランス	47.8	スウェーデン	46.3	日本	29.8	ドイツ	21.3
国	比率 (%)																																																			
韓国	94.7																																																			
中国	77.3																																																			
カナダ	62.0																																																			
オーストラリア	59.0																																																			
シンガポール	57.6																																																			
イギリス	57.0																																																			
スウェーデン	48.9																																																			
アメリカ	47.0																																																			
フランス	44.8																																																			
日本	24.2																																																			
ドイツ	17.9																																																			
国	比率 (%)																																																			
韓国	93.6																																																			
中国	83.0																																																			
オーストラリア	67.7																																																			
イギリス	63.9																																																			
シンガポール	60.4																																																			
カナダ	56.1																																																			
アメリカ	55.8																																																			
フランス	47.8																																																			
スウェーデン	46.3																																																			
日本	29.8																																																			
ドイツ	21.3																																																			

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
22	134	右 グラフ 1	<p>[2020年]</p>	<p>[2021年]</p>
23	134	右下 グラフ 2	<p>(兆円)</p> <p>*2021年度は補正後予算, 2022年度は当初予算</p> <p>一般会計歳出</p> <p>一般会計収入</p> <p>国債発行額</p> <p>20年度</p>	<p>(兆円)</p> <p>*2022年度は補正後予算, 2023年度は当初予算</p> <p>一般会計歳出</p> <p>一般会計収入</p> <p>国債発行額</p> <p>20年度</p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
24	135	右 グラフ 4	<p>30 (兆円)</p> <p>所得税</p> <p>*2022年度は当初予算</p> <p>法人税</p> <p>消費税</p> <p>1989 95 2000 05 10 15 20年度</p>	<p>30 (兆円)</p> <p>所得税</p> <p>*2023年度は当初予算</p> <p>法人税</p> <p>消費税</p> <p>1989 95 2000 05 10 15 20年度</p>
25	137	左上 グラフ 3	(添付別紙 6 参照)	(添付別紙 6 参照)
26	139	左上 グラフ 5	(添付別紙 7 参照)	(添付別紙 7 参照)
27	142	6	高齢化率 <u>29.1%</u> (2021年)の日本は超高齢社会ということになる。	高齢化率 <u>29.0%</u> (2022年)の日本は超高齢社会ということになる。

番号	訂正箇所		原文	訂正文																																																																																																																																																																		
	ページ	行																																																																																																																																																																				
28	142	左図 2 および 出典	 <p>②日本の人口構成の変化(日本の将来推計人口 平成29年推計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>生産年齢人口(15~64歳)</th> <th>高齢社会突入(94)</th> <th>超高齢社会突入(05.07)</th> <th>老年人口(65歳~)</th> <th>年少人口(0~14歳)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1950</td><td>5000</td><td></td><td></td><td></td><td>3000</td></tr> <tr><td>60</td><td>7000</td><td></td><td></td><td></td><td>2000</td></tr> <tr><td>70</td><td>7500</td><td>人口1億人を突破(67)</td><td></td><td></td><td>1500</td></tr> <tr><td>80</td><td>8000</td><td></td><td></td><td></td><td>1000</td></tr> <tr><td>90</td><td>9000</td><td>高齢社会突入(94)</td><td>超高齢社会突入(05.07)</td><td>人口1億人を下回る(53)</td><td>500</td></tr> <tr><td>2000</td><td>8500</td><td></td><td></td><td>老年人口(65歳~)</td><td>3500</td></tr> <tr><td>10</td><td>7500</td><td></td><td></td><td></td><td>3000</td></tr> <tr><td>20</td><td>7000</td><td></td><td></td><td></td><td>2500</td></tr> <tr><td>30</td><td>6500</td><td></td><td></td><td></td><td>2000</td></tr> <tr><td>40</td><td>6000</td><td></td><td></td><td></td><td>1500</td></tr> <tr><td>50</td><td>5500</td><td></td><td></td><td></td><td>1000</td></tr> <tr><td>60</td><td>5000</td><td></td><td></td><td></td><td>500</td></tr> </tbody> </table>	年	生産年齢人口(15~64歳)	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	老年人口(65歳~)	年少人口(0~14歳)	1950	5000				3000	60	7000				2000	70	7500	人口1億人を突破(67)			1500	80	8000				1000	90	9000	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	人口1億人を下回る(53)	500	2000	8500			老年人口(65歳~)	3500	10	7500				3000	20	7000				2500	30	6500				2000	40	6000				1500	50	5500				1000	60	5000				500	 <p>②日本の人口構成の変化(日本の将来推計人口 令和5年推計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>生産年齢人口(15~64歳)</th> <th>高齢社会突入(94)</th> <th>超高齢社会突入(05.07)</th> <th>老年人口(65歳~)</th> <th>年少人口(0~14歳)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1950</td><td>5000</td><td></td><td></td><td></td><td>3000</td></tr> <tr><td>60</td><td>7000</td><td></td><td></td><td></td><td>2000</td></tr> <tr><td>70</td><td>7500</td><td>人口1億人を突破(67)</td><td></td><td></td><td>1500</td></tr> <tr><td>80</td><td>8000</td><td></td><td></td><td></td><td>1000</td></tr> <tr><td>90</td><td>9000</td><td>高齢社会突入(94)</td><td>超高齢社会突入(05.07)</td><td>人口1億人を下回る(56)</td><td>500</td></tr> <tr><td>2000</td><td>8500</td><td></td><td></td><td>老年人口(65歳~)</td><td>3500</td></tr> <tr><td>10</td><td>7500</td><td></td><td></td><td></td><td>3000</td></tr> <tr><td>20</td><td>7000</td><td></td><td></td><td></td><td>2500</td></tr> <tr><td>30</td><td>6500</td><td></td><td></td><td></td><td>2000</td></tr> <tr><td>40</td><td>6000</td><td></td><td></td><td></td><td>1500</td></tr> <tr><td>50</td><td>5500</td><td></td><td></td><td></td><td>1000</td></tr> <tr><td>60</td><td>5000</td><td></td><td></td><td></td><td>500</td></tr> <tr><td>70</td><td>4500</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	年	生産年齢人口(15~64歳)	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	老年人口(65歳~)	年少人口(0~14歳)	1950	5000				3000	60	7000				2000	70	7500	人口1億人を突破(67)			1500	80	8000				1000	90	9000	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	人口1億人を下回る(56)	500	2000	8500			老年人口(65歳~)	3500	10	7500				3000	20	7000				2500	30	6500				2000	40	6000				1500	50	5500				1000	60	5000				500	70	4500				0
年	生産年齢人口(15~64歳)	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	老年人口(65歳~)	年少人口(0~14歳)																																																																																																																																																																	
1950	5000				3000																																																																																																																																																																	
60	7000				2000																																																																																																																																																																	
70	7500	人口1億人を突破(67)			1500																																																																																																																																																																	
80	8000				1000																																																																																																																																																																	
90	9000	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	人口1億人を下回る(53)	500																																																																																																																																																																	
2000	8500			老年人口(65歳~)	3500																																																																																																																																																																	
10	7500				3000																																																																																																																																																																	
20	7000				2500																																																																																																																																																																	
30	6500				2000																																																																																																																																																																	
40	6000				1500																																																																																																																																																																	
50	5500				1000																																																																																																																																																																	
60	5000				500																																																																																																																																																																	
年	生産年齢人口(15~64歳)	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	老年人口(65歳~)	年少人口(0~14歳)																																																																																																																																																																	
1950	5000				3000																																																																																																																																																																	
60	7000				2000																																																																																																																																																																	
70	7500	人口1億人を突破(67)			1500																																																																																																																																																																	
80	8000				1000																																																																																																																																																																	
90	9000	高齢社会突入(94)	超高齢社会突入(05.07)	人口1億人を下回る(56)	500																																																																																																																																																																	
2000	8500			老年人口(65歳~)	3500																																																																																																																																																																	
10	7500				3000																																																																																																																																																																	
20	7000				2500																																																																																																																																																																	
30	6500				2000																																																																																																																																																																	
40	6000				1500																																																																																																																																																																	
50	5500				1000																																																																																																																																																																	
60	5000				500																																																																																																																																																																	
70	4500				0																																																																																																																																																																	
29	142	注 1	①1975年に1.91だったのが、2005年には1.26まで低下した(2021年は1.30)。	①1975年に1.91だったのが、2005年には1.26まで低下した(2022年は1.26)。																																																																																																																																																																		
30	142	左下 図 3	 <p>国民一人あたり社会保障費(右目盛り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>福祉その他</th> <th>医療</th> <th>年金</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1975</td><td>10</td><td>5</td><td>5</td><td>20</td></tr> <tr><td>80</td><td>20</td><td>10</td><td>10</td><td>40</td></tr> <tr><td>85</td><td>30</td><td>15</td><td>15</td><td>60</td></tr> <tr><td>90</td><td>40</td><td>20</td><td>20</td><td>80</td></tr> <tr><td>95</td><td>50</td><td>30</td><td>30</td><td>110</td></tr> <tr><td>2000</td><td>70</td><td>40</td><td>40</td><td>150</td></tr> <tr><td>05</td><td>80</td><td>50</td><td>50</td><td>180</td></tr> <tr><td>10</td><td>90</td><td>60</td><td>60</td><td>210</td></tr> <tr><td>15</td><td>100</td><td>70</td><td>70</td><td>240</td></tr> <tr><td>18</td><td>110</td><td>80</td><td>80</td><td>270</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>120</td><td>90</td><td>90</td><td>300</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>130</td><td>100</td><td>100</td><td>330</td></tr> </tbody> </table>	年度	福祉その他	医療	年金	合計	1975	10	5	5	20	80	20	10	10	40	85	30	15	15	60	90	40	20	20	80	95	50	30	30	110	2000	70	40	40	150	05	80	50	50	180	10	90	60	60	210	15	100	70	70	240	18	110	80	80	270	19年度	120	90	90	300	20年度	130	100	100	330	 <p>国民一人あたり社会保障費(右目盛り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>福祉その他</th> <th>医療</th> <th>年金</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1975</td><td>10</td><td>5</td><td>5</td><td>20</td></tr> <tr><td>80</td><td>20</td><td>10</td><td>10</td><td>40</td></tr> <tr><td>85</td><td>30</td><td>15</td><td>15</td><td>60</td></tr> <tr><td>90</td><td>40</td><td>20</td><td>20</td><td>80</td></tr> <tr><td>95</td><td>50</td><td>30</td><td>30</td><td>110</td></tr> <tr><td>2000</td><td>70</td><td>40</td><td>40</td><td>150</td></tr> <tr><td>05</td><td>80</td><td>50</td><td>50</td><td>180</td></tr> <tr><td>10</td><td>90</td><td>60</td><td>60</td><td>210</td></tr> <tr><td>15</td><td>100</td><td>70</td><td>70</td><td>240</td></tr> <tr><td>20</td><td>110</td><td>80</td><td>80</td><td>270</td></tr> <tr><td>21年度</td><td>120</td><td>90</td><td>90</td><td>300</td></tr> <tr><td>22年度</td><td>130</td><td>100</td><td>100</td><td>330</td></tr> </tbody> </table>	年度	福祉その他	医療	年金	合計	1975	10	5	5	20	80	20	10	10	40	85	30	15	15	60	90	40	20	20	80	95	50	30	30	110	2000	70	40	40	150	05	80	50	50	180	10	90	60	60	210	15	100	70	70	240	20	110	80	80	270	21年度	120	90	90	300	22年度	130	100	100	330																																
年度	福祉その他	医療	年金	合計																																																																																																																																																																		
1975	10	5	5	20																																																																																																																																																																		
80	20	10	10	40																																																																																																																																																																		
85	30	15	15	60																																																																																																																																																																		
90	40	20	20	80																																																																																																																																																																		
95	50	30	30	110																																																																																																																																																																		
2000	70	40	40	150																																																																																																																																																																		
05	80	50	50	180																																																																																																																																																																		
10	90	60	60	210																																																																																																																																																																		
15	100	70	70	240																																																																																																																																																																		
18	110	80	80	270																																																																																																																																																																		
19年度	120	90	90	300																																																																																																																																																																		
20年度	130	100	100	330																																																																																																																																																																		
年度	福祉その他	医療	年金	合計																																																																																																																																																																		
1975	10	5	5	20																																																																																																																																																																		
80	20	10	10	40																																																																																																																																																																		
85	30	15	15	60																																																																																																																																																																		
90	40	20	20	80																																																																																																																																																																		
95	50	30	30	110																																																																																																																																																																		
2000	70	40	40	150																																																																																																																																																																		
05	80	50	50	180																																																																																																																																																																		
10	90	60	60	210																																																																																																																																																																		
15	100	70	70	240																																																																																																																																																																		
20	110	80	80	270																																																																																																																																																																		
21年度	120	90	90	300																																																																																																																																																																		
22年度	130	100	100	330																																																																																																																																																																		

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
31	148	左下図 4	<p>GDP (国内総生産) 第三次産業 第二次産業 第一次産業 就業者 第三次産業 第二次産業 第一次産業</p> <p>1950 60 70 80 90 2000 10 18年</p>	<p>GDP (国内総生産) 第三次産業 第二次産業 第一次産業 就業者 第三次産業 第二次産業 第一次産業</p> <p>1950 60 70 80 90 2000 10 20年</p>
32	158	右図 1	<p>*内水面漁業・養殖業は除く。</p> <p>遠洋漁業 沖合漁業 沿岸漁業(養殖業を除く) 海面養殖業</p> <p>1500 万t 1000 500 0</p> <p>1965 70 75 80 85 90 95 2000 05 10 15 19年</p> <p>①日本国内の漁業・養殖業の生産量の推移(水産庁資料)</p>	<p>*内水面漁業・養殖業は除く。</p> <p>遠洋漁業 沖合漁業 沿岸漁業(養殖業を除く) 海面養殖業</p> <p>1500 万t 1000 500 0</p> <p>1965 70 75 80 85 90 95 2000 05 10 15 20年</p> <p>①日本国内の漁業・養殖業の生産量の推移(水産庁資料)</p>

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
33	162	右上図 1	 <p>①日本の領域</p>	 <p>①日本の領域</p>
34	165	注 2	<p>②安全保障理事会が平和維持の機能を果たせない場合、総会の3分の2の賛成で軍事的な強制措置の勧告が可能になった。この決議にもとづく緊急特別総会が過去<u>10</u>回開かれている。</p>	<p>②安全保障理事会が平和維持の機能を果たせない場合、総会の3分の2の賛成で軍事的な強制措置の勧告が可能になった。この決議にもとづく緊急特別総会が過去<u>11</u>回開かれている。</p>
35	169	右下図 3	(添付別紙 7 参照)	(添付別紙 7 参照)
36	169	右下図 3	(添付別紙 7 参照)	(添付別紙 7 参照)
37	171	上年表	(添付別紙 8 参照)	(添付別紙 8 参照)

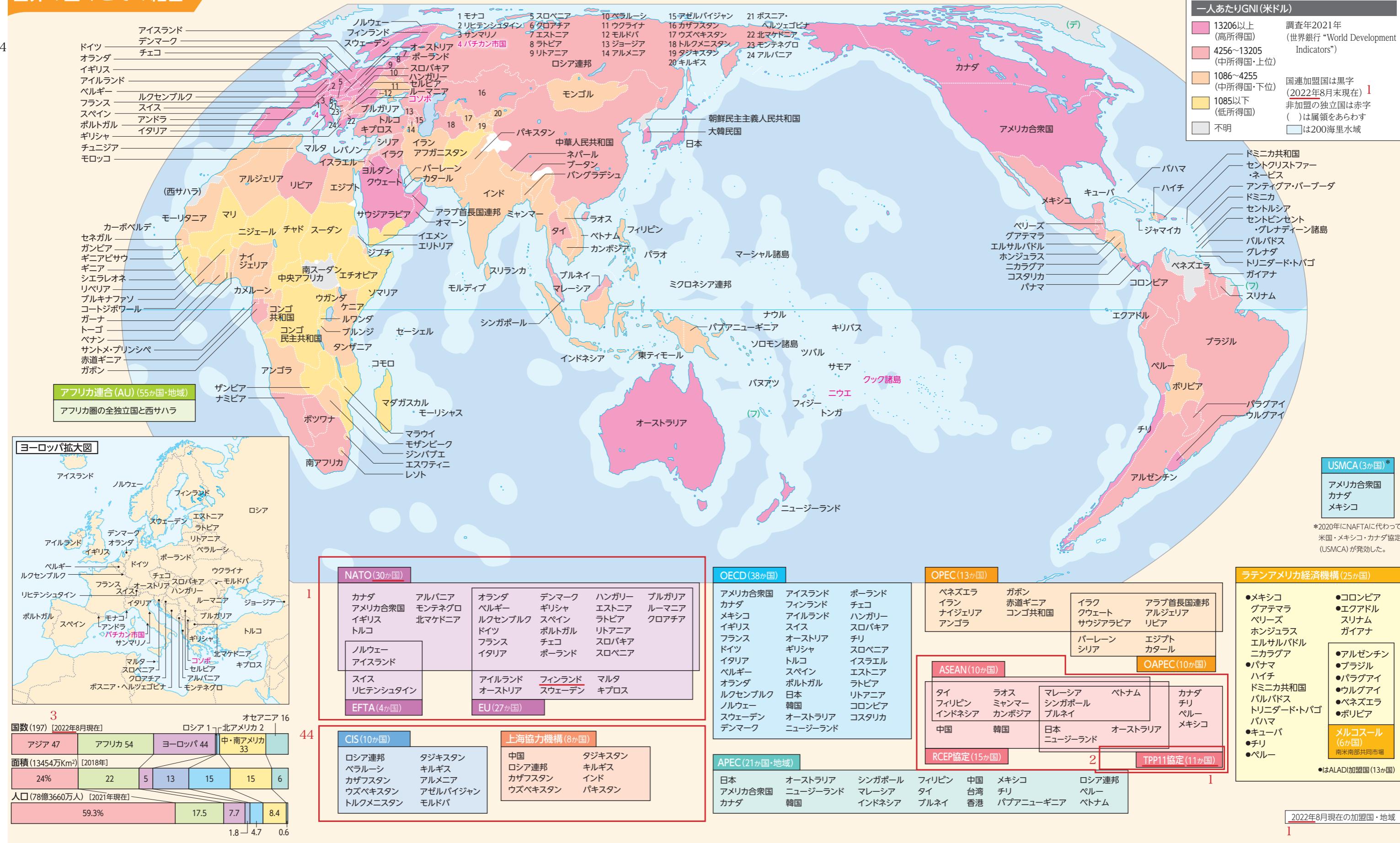
番号	訂正箇所		原文	訂正文																																																																																																												
	ページ	行																																																																																																														
38	177	右下 グラフ 6	<p>(万人)</p> <p>* 国内避難民や自国にいる帰還民・紛争被災者、無国籍者など</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>難民</th> <th>その他の援助対象者*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1990</td><td>1500</td><td>1500</td></tr> <tr><td>92</td><td>1500</td><td>1500</td></tr> <tr><td>94</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>96</td><td>1000</td><td>1000</td></tr> <tr><td>98</td><td>1800</td><td>1800</td></tr> <tr><td>2000</td><td>1800</td><td>1800</td></tr> <tr><td>02</td><td>1800</td><td>1800</td></tr> <tr><td>04</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>06</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>08</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>10</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>12</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>14</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>16</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>18</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>20</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>20年</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> </tbody> </table>	年	難民	その他の援助対象者*	1990	1500	1500	92	1500	1500	94	1200	1200	96	1000	1000	98	1800	1800	2000	1800	1800	02	1800	1800	04	1200	1200	06	1200	1200	08	1200	1200	10	1200	1200	12	1200	1200	14	1200	1200	16	1200	1200	18	1200	1200	20	1200	1200	20年	1200	1200	<p>(万人)</p> <p>* 国内避難民や自国にいる帰還民・紛争被災者、無国籍者など</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>難民</th> <th>その他の援助対象者*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1990</td><td>1500</td><td>1500</td></tr> <tr><td>92</td><td>1500</td><td>1500</td></tr> <tr><td>94</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>96</td><td>1000</td><td>1000</td></tr> <tr><td>98</td><td>1800</td><td>1800</td></tr> <tr><td>2000</td><td>1800</td><td>1800</td></tr> <tr><td>02</td><td>1800</td><td>1800</td></tr> <tr><td>04</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>06</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>08</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>10</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>12</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>14</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>16</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>18</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>20</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> <tr><td>22年</td><td>1200</td><td>1200</td></tr> </tbody> </table>	年	難民	その他の援助対象者*	1990	1500	1500	92	1500	1500	94	1200	1200	96	1000	1000	98	1800	1800	2000	1800	1800	02	1800	1800	04	1200	1200	06	1200	1200	08	1200	1200	10	1200	1200	12	1200	1200	14	1200	1200	16	1200	1200	18	1200	1200	20	1200	1200	22年	1200	1200
年	難民	その他の援助対象者*																																																																																																														
1990	1500	1500																																																																																																														
92	1500	1500																																																																																																														
94	1200	1200																																																																																																														
96	1000	1000																																																																																																														
98	1800	1800																																																																																																														
2000	1800	1800																																																																																																														
02	1800	1800																																																																																																														
04	1200	1200																																																																																																														
06	1200	1200																																																																																																														
08	1200	1200																																																																																																														
10	1200	1200																																																																																																														
12	1200	1200																																																																																																														
14	1200	1200																																																																																																														
16	1200	1200																																																																																																														
18	1200	1200																																																																																																														
20	1200	1200																																																																																																														
20年	1200	1200																																																																																																														
年	難民	その他の援助対象者*																																																																																																														
1990	1500	1500																																																																																																														
92	1500	1500																																																																																																														
94	1200	1200																																																																																																														
96	1000	1000																																																																																																														
98	1800	1800																																																																																																														
2000	1800	1800																																																																																																														
02	1800	1800																																																																																																														
04	1200	1200																																																																																																														
06	1200	1200																																																																																																														
08	1200	1200																																																																																																														
10	1200	1200																																																																																																														
12	1200	1200																																																																																																														
14	1200	1200																																																																																																														
16	1200	1200																																																																																																														
18	1200	1200																																																																																																														
20	1200	1200																																																																																																														
22年	1200	1200																																																																																																														
39	188-189	上グラフ	(添付別紙 9 参照)	(添付別紙 9 参照)																																																																																																												
40	191	左上地図 3 および キャプション	<p>アイスランド スウェーデン フィンランド ノルウェー エストニア ラトビア デンマーク リトアニア アイルランド オランダ★ ベルギー★ ルクセンブルグ★ リヒテンシュタイン ポーランド ドイツ★ チェコ ワクライナ モルドバ ハンガリー オーストリア ブルガリア 北マケドニア トルコ クロアチア ルビア＝ルーマニア ブルガリア スペイン イタリア★ ポルトガル スペイン スロベニア マルタ ギリシャ アルバニア モンテネグロ ボスニア・ヘルツェゴビナ キプロス ★はEC原加盟の6か国</p> <p>EU加盟国(27か国) うちユーロ導入国(19か国) EFTA加盟国(4か国) EU加盟を申請している国</p> <p>★はEC原加盟の6か国</p> <p>③ヨーロッパの地域統合(2022年9月現在)</p>	<p>アイスランド スウェーデン フィンランド ノルウェー エストニア ラトビア デンマーク リトアニア アイルランド オランダ★ ベルギー★ ルクセンブルグ★ リヒテンシュタイン ポーランド ドイツ★ チェコ ワクライナ モルドバ ハンガリー オーストリア ブルガリア 北マケドニア トルコ クロアチア ルビア＝ルーマニア ブルガリア スペイン イタリア★ ポルトガル スペイン スロベニア マルタ ギリシャ アルバニア モンテネグロ ボスニア・ヘルツェゴビナ キプロス ★はEC原加盟の6か国</p> <p>EU加盟国(27か国) うちユーロ導入国(20か国) EFTA加盟国(4か国) EU加盟を申請している国</p> <p>★はEC原加盟の6か国</p> <p>③ヨーロッパの地域統合(2023年9月現在)</p>																																																																																																												

番号	訂正箇所		原文	訂正文
	ページ	行		
41	191	注9	<p>❾アメリカは、中国との貿易で巨額の赤字を計上している。これに対し、トランプ政権は鉄鋼をはじめとする中国からの輸入品に高率の関税をかける措置をとった。対抗して、中国も<u>アメリカから</u>輸入している商品に報復関税をかける措置をとった。</p>	<p>❾アメリカは、中国との貿易で巨額の赤字を計上している。これに対し、トランプ政権は鉄鋼をはじめとする中国からの輸入品に高率の関税をかける措置をとった。対抗して、中国も<u>アメリカから</u>輸入している商品に報復関税をかける措置をとった。</p>
42	192	16	世界の人口は <u>2019年の77億人</u> から2030年には85億	世界の人口は <u>2022年の80億人</u> から2030年には85億
43	後見返		(添付別紙 10 参照)	(添付別紙 10 参照)
44	前見返		(添付別紙 1 参照)	(添付別紙 2 参照)
45	71	右上写真 4	(添付別紙 5 参照)	(添付別紙 5 参照)
46	122	右上 説明文	(添付別紙 5 参照)	(添付別紙 5 参照)
47	163	右下写真 タイトル	 <p>❻魚釣島(写真上部)近海で並走する中国漁船と海上保安庁の巡視船(右)(2012年)</p>	 <p>❻魚釣島(写真上部)近海で並走する中国漁船と海上保安庁の巡視船(右)(2012年)</p>

番号

原文

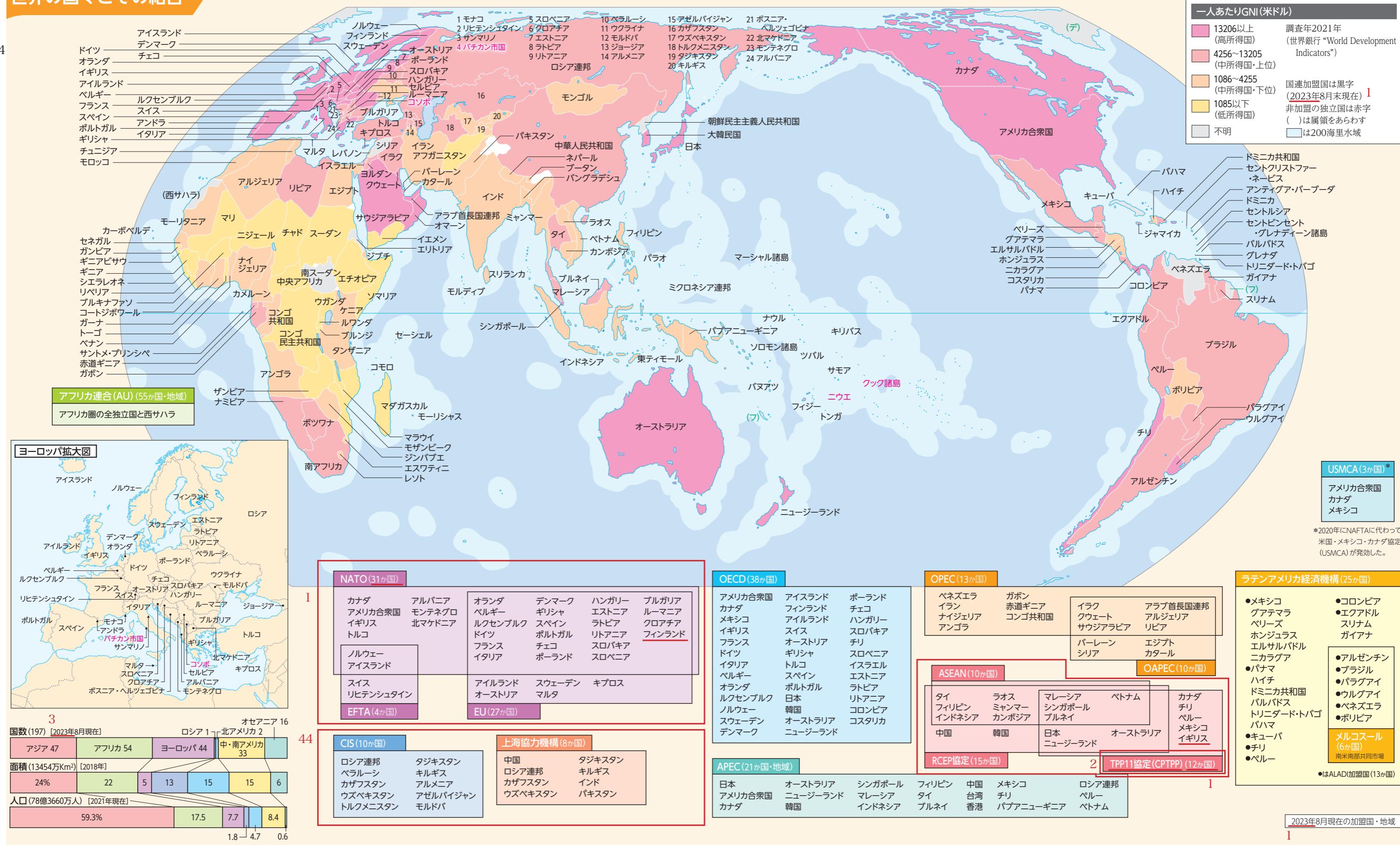
世界の国々とその結合



番号

訂正文

世界の国々とその結合



番号

9

原文

〈追究しよう〉ページの構成

つかむ ▶ 考える ▶ まとめる という探究学習のプロセスにそって構成されています。

追究しよう

各テーマに関する主題(具体的な探究課題)の例をあげて説明しています。これが同時にここでの学習課題となります。

考える

視点

視点をふまえたさまざまな意見

トライ

〈つかむ〉で理解した現代の課題について、その解決に向けて設定した問い合わせて考えましょう。

考えるためのガイドとして、幸福、正義、公正など、特定の〈視点〉に着目した切り口を示しています。
また、欄外の に〈視点〉を示しています。

上で示した〈視点〉などを活用した意見の例を示しています。

調べる、議論する、など関連する学習活動を示しています。

3 財政の役割と持続可能な社会保障制度

「持続可能な財政」を実現するためにはどうするべきだろうか?

日本の財政規模は諸外国と比べて大きい

日本の財政(政府)の規模を諸国と比較してみよう。国の歳出がGDPに対する割合であるのか? 看みると、日本の歳出額の比率は先進国の中でも比較的小いことがわかる。

また、人口あたりの公務員数を比較することも、政府の大きさをかる基準として用いられる。日本の人口あたりの公務員数は、ヨーロッパの主要国やアメリカと比べて少ない。

こうしたデータから、日本は先進国の中でも比較的小な政府であることがわかる。

財政危機の原因は歳出の多さか

日本の財政赤字は、OECDの統計によると、日本の債務は他の先進国の中でも最も高い傾向にある。

また、**①** 看みると、1990年ごろを境に、歳出を税収が大きく下回るようになり、その差を公債(国债)の発行によって補ててきることわかる。そして、税収をこえる公債の発行は余儀なくされた年度にみられる。

このよう財政悪化は、高齢化の進行にともなう、歳出における社会保障費の増加が大きな原因である。

社会保障制度は、加入者が支払う保険料と、自己をもつてする公費によってまかなわれており、高齢化の進行は公費負担を増加させてきた。

つかむ 日本の財政状況

● おもな国のGDPに対する政府(歳出)の割合(OECD資料)

国	1990 (%)	2000 (%)	2010 (%)
フランス	44.4	49.2	59.2
スペイン	39.6	43.9	53.3
オーストリア	37.3	42.3	52.0
ドイツ	35.9	40.2	51.4
イタリア	34.4	39.0	50.2
デンマーク	32.4	37.0	47.3
スウェーデン	31.0	35.3	46.8
スロバキア	29.3	33.3	44.8
ノルウェー	27.3	30.3	42.7
アイスランド	26.7	30.7	42.3
ポーランド	24.2	28.4	40.0
オランダ	23.2	27.0	39.0
日本	17.3	21.3	34.3

● 日本の歳入・税収と公債発行額の推移(財務省資料)

● 2021年は埼玉県予算、2022年は当初予算

● 2022年から財政再建規制法(リセント)の分析もございます。ジニコリック(医療)が歳出を減らすと共に、税率の最適化などの公的健康事を進めています。

● 主要項目の税収(一般会計分の推移)(財務省資料)

● 2022年は埼玉県予算

● 2022年から財政再建規制法(リセント)の分析もございます。ジニコリック(医療)が歳出を減らすと共に、税率の最適化などの公的健康事を進めています。

● まとめ 「持続可能な財政」をめざして

私は財政により、みんなが必要とするもののために税金を負担しあい、安心して暮らせる社会をつくってきた。しかし、景気の低迷や高齢化の進展などによって、歳出を公債に頼らざるえない状況にある。公債への依存度は現在世代が将来世代へ負担を先取りしていることを意味するが、一般的に税負担の増加や歳出の削減につながる政策への賛成は得られにくいことが多い。それは、どのようにした財政収支の均衡をはかることができるのだろうか。今後、私たち一人ひとりが当事者意識をもって「持続可能な財政」について考えていく必要がある。

● 財政の視点

● 持続可能な社会保障制度

● トライ

1歳で明るにならうこと、胸がわたりから考え方でみよう。2歳で世界を広く見てみよう。3歳で自分自身のためのどのようにあるのか調べてみよう。

つかむ

主題をさらに焦点化して、私たちが取り組むべき具体的な現代の課題を示しています。その課題について、解説や資料をとおして現状を理解しましょう。

まとめる

このページでの学習から得られた見解をまとめ、続く【本文ページ】の学習を方向づけましょう。

※本文ページの構成は第1部と同じです。

番号

訂正文

〈追究しよう〉
ページの構成

つかむ ▶ 考える ▶ まとめる という探究学習のプロセスにそって構成されています。

各テーマに関する主題(具体的な探究課題)の例をあげて説明しています。これが同時にここでの学習課題となります。

考える

〈つかむ〉で理解した現代の課題について、その解決に向けて設定した問い合わせましょう。

考えるためのガイドとして、幸福、正義、公正など、特定の〈視点〉に着目した切り口を示しています。
また、欄外の **視点** に〈視点〉を示しています。

視点

視点をふまえたさまざまな意見

トライ

上で示した〈視点〉などを活用した意見の例を示しています。

調べる、議論する、など関連する学習活動を示しています。

テーマ 3 財政の役割と持続可能な社会保障制度

【持続可能な財政】を実現するためにどうするべきだろうか?

日本の財政は危機的状況におかれている。その原因や決策について考えたことはあるだろうか。現在、国の借金(国債残高)は1000兆円にこえていて(2022年現在)。一方、教育や保健、医療、年金などの公債は、今後は絶度成長戻りが進む予測であります。そこで、持続可能な財政をどのようにして実現するのかという課題が浮き彫りになっている。

ここでは、生活に欠かせない財政の持続可能性について、課題とその解決策を考えてみよう。

つかむ 日本の財政状況

●日本の財政規制は諸外国と比べて大きい

日本の財政(政府)の規模を日本と比較してみよう。国の歳出がGDPに対する割合であるのか。**①** をみると、日本の歳出額の比率は先進国の中なかで比較的小さいことがわかる。

また、人口あたりの公務員数を比較することも、政府の大仕事である基準として用いられる。日本の人口あたりの公務員数は、ヨーロッパの主要国やアメリカと比べて少ない。

こうしたデータから、日本は先進国のなかで比較的小さな国家であることがわかる。

●財政危機の原因は歳出の多さ

日本の財政赤字は、OECD(69)加盟国の中なかで最も大きい。日本の債務残高はGDPの2倍をこえている。主に先進国の中なかで最も高くなっている。

また、**②** をみると、1990年ころを境に、歳出と税収が大きく下落するようになり、その差額(国債)の逆行によつて縮小できなくなっている。そして、税収をこえる公債の逆行を余儀なくされた年度もみられる。

このよう財政悪化は、高齢化の逆行とともに、社会保険制度は、加入者が支払う保険料と、逆におもな財源とする公費によってまわなわれており、高齢化の逆行は公費負担を増加させてきた。

●おもな国のGDPに対する政府(総支出)の割合(OECD資料)

国	2021年
フランス	59.0
イタリア	56.4
オーストリア	55.8
フィンランド	55.5
スウェーデン	55.2
イギリス	53.1
デンマーク	50.8
ノルウェー	50.6
アイスランド	49.3
スペイン	48.1
ポルトガル	47.8
オランダ	46.6
ギリシャ	44.9
アメリカ	44.5
日本	44.5

●日本の歳出・税収と公債残高額の推移(財務省資料)

●財政の歳出・税収と公債残高額の推移(財務省資料)

考える 財政の課題を解決するために必要なことは何か?

日本の財政を持続可能なものにするためにはどういった取り組みが必要だろうか。ここでは、増大し続けている社会保障支出に着目して、財政の課題について、(歳出)と(歳入)の現状から考えてみよう。

視点 1 (歳出)の削減を行うことは可能か?

今後、高齢化がいっそう進行すると、介護や医療、年金に関する給付がかかる負担が大きくなる。そこで、医療の高齢化とともにぐんぐん医療サービス、健康増進などの予防的取り組みがさらに必要となることされる。

実施する事業について、予算額に少しでも大きな成果が得られる方法がないか、同じ費用でより大きな成果が得られる方法がないか、予算の執行の結果、事業の目的を達成しているか、といった観点から検査する必要がある。

●広島県の医療・健診制度確立システム(貿易市) 貿易市では、2000年から医療費削減目標書(レポート)の分野にとんじづき、ジネウッド(医療品の流通を進めると同時に、糖尿病の重症化予防などの保健事業を進める、医療費の削減をはかっている。

●予算執行の検査・監査(財務省資料)

視点 2 (歳入)の増加のためには、何が必要か?

日本における国民所得に対する租税と社会保障費の負担割合である国民負担率は、以前に比べて上昇しているが、諸外国に比べると低い状況にある(14%)。今後の国民負担のあり方については、国民全体で議論する必要がある。

歳入を増やすためには、各項目(所得税、法人税、消費税など)の特色をふまえた議論と検討が必要である。所得税は世界の状況をふまえた削除や新設の軽減、法人税は課税の対象と範囲および税率のアリガムが課題となる。消費税は景気や人口構成の影響を受けにくいく、逆進性(±18%)への配慮が必要である。

●予算執行の検査・監査(財務省資料)

トライ

歳出や歳入、財政のあり方は、国会の審議が必須であり、政治のあり方や選挙権がかかる問題がかかる。そのため、責任ある議論が必要であるのではないか。

●歳出・歳入の現状と課題(財務省資料)

私たちは財政により、みんなが必要とするもののために税金を負担しあい、安心して暮らせる社会をつくっています。しかし、景気の低迷や高齢化の進展などによって、歳入を公債に頼らざるを得ない。公債の依存は現在世代が将来世代へ負担を先送りしていることを意味するが、一般的に税負担の増加や歳出の削減につながる政策への支持は得られにくいことが多い。それは、どのようにしたら財政収支の均衡をはかることができるのだろうか。今後、私たち一人ひとりが当事者意識をもって「持続可能な財政」について考えていく必要がある。

●歳出・歳入の現状と課題(財務省資料)

まとめる 「持続可能な財政」をめざして

私たち財政により、みんなが必要とするものために税金を負担しあい、安心して暮らせる社会をつくっています。しかし、景気の低迷や高齢化の進展などによって、歳入を公債に頼らざるを得ない。公債の依存は現在世代が将来世代へ負担を先送りしていることを意味するが、一般的に税負担の増加や歳出の削減につながる政策への支持は得られにくいことが多い。それは、どのようにしたら財政収支の均衡をはかることができるのだろうか。今後、私たち一人ひとりが当事者意識をもって「持続可能な財政」について考えていく必要がある。

●歳出・歳入の現状と課題(財務省資料)

まとめ

このページでの学習から得られた見解をまとめ、続く【本文ページ】の学習を方向づけましょう。

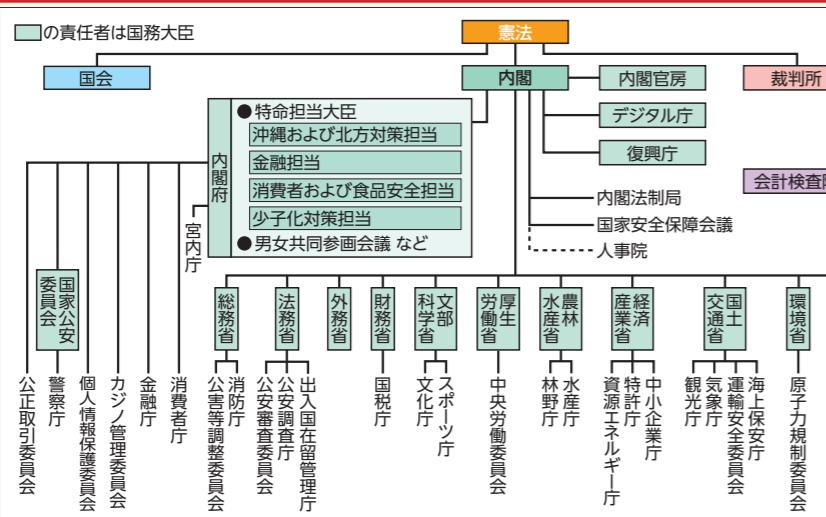
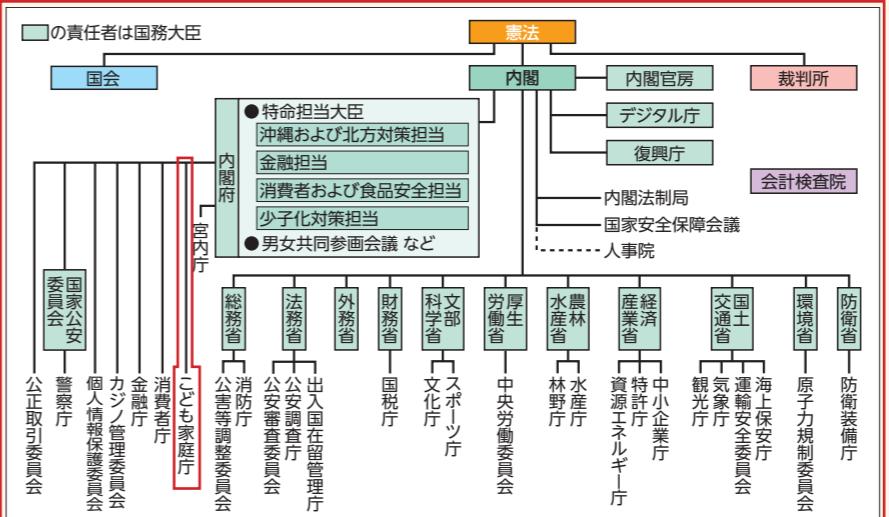
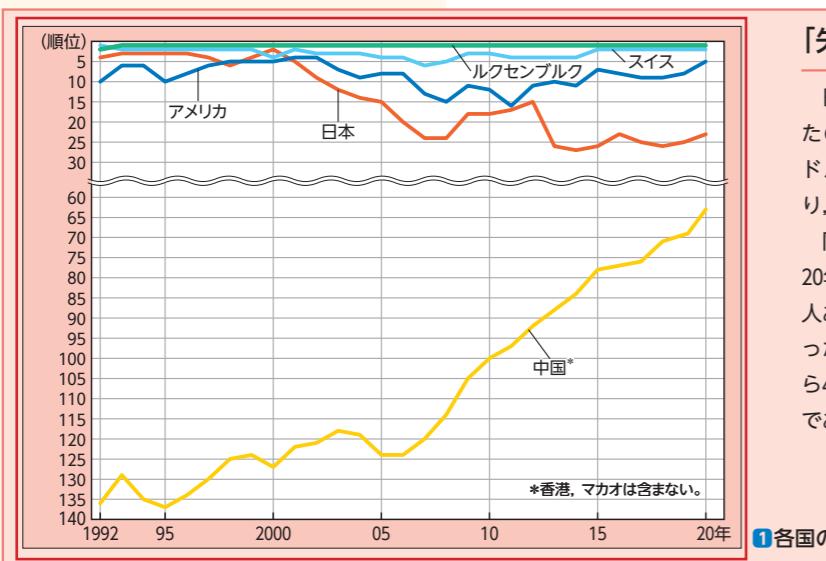
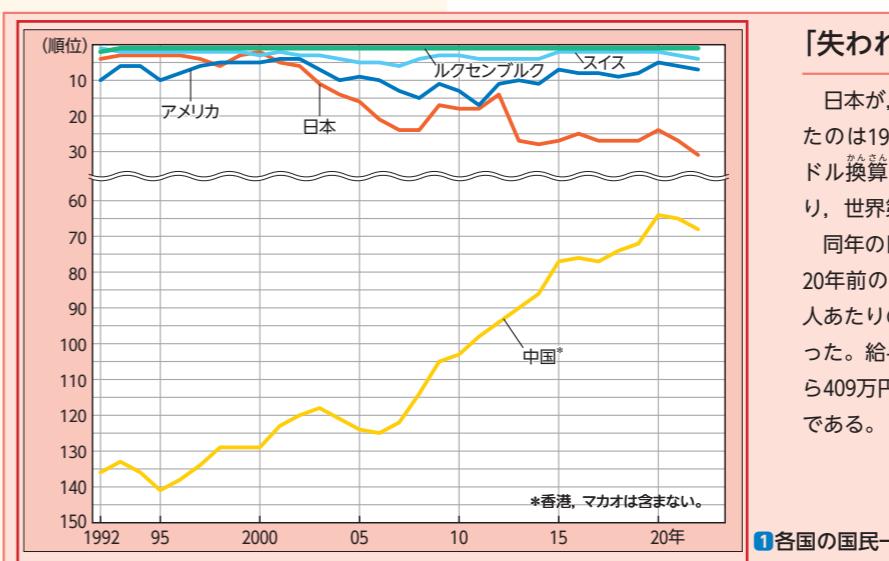
しようでん

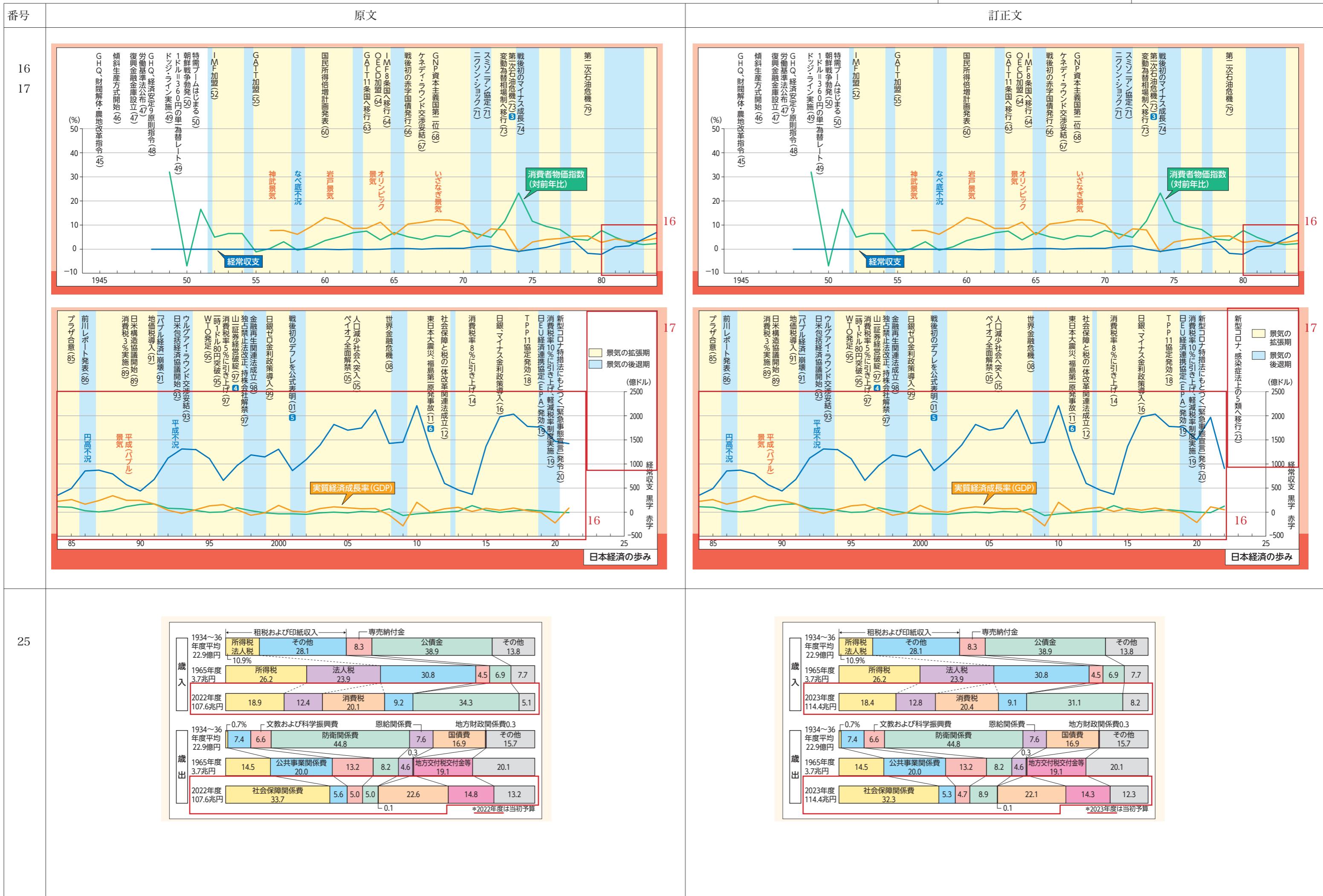
主題をさらに焦点化して、私たちが取り組むべき具体的な現代の課題を示しています。その課題について、解説や資料をとおして現状を理解しましょう。

つかむ

まとめる

※本文ページの構成は第1部と同じです。

番号	原文	訂正文
11 45	<p>11</p>  <p>③日本のおもな行政機構 省庁再編により、内閣機能の強化、縦割り行政の弊害是正、行政のスリム化がはかられた。なお、2012年に東日本大震災からの復興をになう機関として復興庁が設置された。また、2023年4月、内閣府のもとにこども家庭庁が設置される。</p> <p>④中央官庁街(東京都千代田区霞が関)</p> <p>11 45</p>	<p>11</p>  <p>③日本のおもな行政機構 省庁再編により、内閣機能の強化、縦割り行政の弊害是正、行政のスリム化がはかられた。なお、2012年に東日本大震災からの復興をになう機関として復興庁が設置された。</p> <p>④中央官庁街(東京都千代田区霞が関)</p> <p>11 45</p>
15 46	<p>15</p>  <p>「失われた20年」とは何か？</p> <p>日本が、GNP(国民総生産)で資本主義国第2位になったのは1968年のことであった。40年以上たった2010年、ドル換算の名目GDP(国内総生産)で中国が日本を上回り、世界第2位になった。</p> <p>同年の日本の名目GDPは491兆円、この額は1992年、20年前の名目GDPとほぼ同じである。この間、国民一人あたりのGDPは、世界第4位から第17位になってしまった。給与所得者一人あたりの平均給与は、455万円から409万円にまで下がっている。まさに「失われた20年」である。</p> <p>①各国の国民一人あたりGDPの順位の推移</p> <p>15 46</p>	<p>15</p>  <p>「失われた20年」とは何か？</p> <p>日本が、GNP(国民総生産)で資本主義国第2位になったのは1968年のことであった。40年以上たった2010年、ドル換算の名目GDP(国内総生産)で中国が日本を上回り、世界第2位になった。</p> <p>同年の日本の名目GDPは491兆円、この額は1992年、20年前の名目GDPとほぼ同じである。この間、国民一人あたりのGDPは、世界第4位から第18位になってしまった。給与所得者一人あたりの平均給与は、455万円から409万円にまで下がっている。まさに「失われた20年」である。</p> <p>①各国の国民一人あたりGDPの順位の推移</p> <p>15 46</p>



番号	原文	訂正文
26		
35 36	<p>35</p> <p>36</p>	<p>35</p> <p>36</p>

番号	原文	訂正文
39	<p>原文</p> <p>1945年：ブレトン・ウッズ協定調印 (ドル高は止) → ブレトン・ウッズ体制</p> <p>1947年：IMF・IBRD業務開始 → 日本、IMF・IBRDに加盟</p> <p>1950年：GATT業務開始 → 日本、GATTに加盟</p> <p>1955年：世界と日本の貿易額 (兆ドル)</p> <p>1964年：第一次石油危機 (ECS) 発効 → 第一回国連貿易開発会議</p> <p>1969年：SDR制度の組み入れ → IMF第一次改正協定発効 (スミソニアン協定)</p> <p>1971年：新国際経済秩序 (NIEO) 樹立宣言採択 → 第二回先進国首脳会議</p> <p>1973年：第二次石油危機 (ECS) 発効 → 第二回国連貿易開発会議</p> <p>1976年：IMF第二次改正協定発効 (スミソニアン協定)</p> <p>1979年：第三次石油危機 (ECS) 発効 → 第三回国連貿易開発会議</p> <p>1985年：G7、ヨーロッパ・ラウンド開催 (ドル高は止) → キングストン体制 (現在のIMF体制)</p> <p>1990年：ソ連解体 → 東京市場ではじめて1ドル=100円突破</p> <p>1994年：東京市場ではじめて1ドル=79円台を記録</p> <p>1995年：アジア通貨危機 (ドル高は止) → ユーロ導入 (4)</p> <p>1997年：ユーロ紙幣・硬貨の流通開始</p> <p>1999年：ユーロ・ショック (ドル高は止) → リーマン・ショック (ドル高は止)</p> <p>2001年：ドーハ・ラウンド開催 (2011年休止宣言) → ヨーロ・リーマン・ショック問題発生</p> <p>2005年：人民元切り上げ (ドル高は止) → サブプライムローン問題発生</p> <p>2007年：ギリシャ財政危機 (ドル高は止) → ヨーロ・リーマン・ショック問題発生</p> <p>2008年：EU経済連携協定 (EPA) 発効 (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>2010年：中国、APECで帯路構想アピール (ドル高は止) → TPP協定発効 (ドル高は止)</p> <p>2011年：日EU経済連携協定 (EPA) 発効 (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>2014年：中国、APECで帯路構想アピール (ドル高は止) → 地域的な包括的経済連携 (RCEP) 協定発効 (ドル高は止)</p> <p>2015年：ギリシャ投票でEU離脱派が賛成多数 (ドル高は止) → ヨーロ・リーマン・ショック問題発生 (ドル高は止)</p> <p>2016年：日本、AIB発足 (6) (ドル高は止) → イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数 (ドル高は止)</p> <p>2018年：TPP協定発効 (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>2020年：日EU経済連携協定 (EPA) 発効 (ドル高は止) → 地域的な包括的経済連携 (RCEP) 協定発効 (ドル高は止)</p> <p>2022年：中国、APECで帯路構想アピール (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>注：円相場は東京市場の月末終値 (日本銀行資料)</p> <p>世界と日本の貿易額 (兆ドル) の推移</p> <p>1945年から2022年までの世界と日本の貿易額 (兆ドル) の推移を示す。縦軸は0から50兆ドル、横軸は年を示す。青い線が世界の貿易額、赤い線が日本の貿易額である。</p>	<p>訂正文</p> <p>1945年：ブレトン・ウッズ協定調印 (ドル高は止) → ブレトン・ウッズ体制</p> <p>1947年：IMF・IBRD業務開始 → 日本、IMF・IBRDに加盟</p> <p>1950年：GATT業務開始 → 日本、GATTに加盟</p> <p>1955年：世界と日本の貿易額 (兆ドル)</p> <p>1964年：第一次石油危機 (ECS) 発効 → 第一回国連貿易開発会議</p> <p>1969年：SDR制度の組み入れ → IMF第一次改正協定発効 (スミソニアン協定)</p> <p>1971年：新国際経済秩序 (NIEO) 樹立宣言採択 → 第二回先進国首脳会議</p> <p>1973年：第二次石油危機 (ECS) 発効 → 第二回国連貿易開発会議</p> <p>1976年：IMF第二次改正協定発効 (スミソニアン協定)</p> <p>1979年：第三次石油危機 (ECS) 発効 → 第三回国連貿易開発会議</p> <p>1985年：G7、ヨーロッパ・ラウンド開催 (ドル高は止) → キングストン体制 (現在のIMF体制)</p> <p>1990年：ソ連解体 → 東京市場ではじめて1ドル=100円突破</p> <p>1994年：東京市場ではじめて1ドル=79円台を記録</p> <p>1995年：アジア通貨危機 (ドル高は止) → ユーロ導入 (4)</p> <p>1999年：ユーロ紙幣・硬貨の流通開始</p> <p>2001年：ドーハ・ラウンド開催 (2011年休止宣言) → ヨーロ・リーマン・ショック問題発生</p> <p>2005年：人民元切り上げ (ドル高は止) → サブプライムローン問題発生</p> <p>2007年：ギリシャ財政危機 (ドル高は止) → ヨーロ・リーマン・ショック問題発生</p> <p>2008年：EU経済連携協定 (EPA) 発効 (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>2010年：中国、APECで帯路構想アピール (ドル高は止) → TPP協定発効 (ドル高は止)</p> <p>2011年：日EU経済連携協定 (EPA) 発効 (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>2014年：中国、APECで帯路構想アピール (ドル高は止) → 地域的な包括的経済連携 (RCEP) 協定発効 (ドル高は止)</p> <p>2015年：ギリシャ投票でEU離脱派が賛成多数 (ドル高は止) → ヨーロ・リーマン・ショック問題発生 (ドル高は止)</p> <p>2016年：日本、AIB発足 (6) (ドル高は止) → イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数 (ドル高は止)</p> <p>2018年：TPP協定発効 (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>2020年：日EU経済連携協定 (EPA) 発効 (ドル高は止) → 地域的な包括的経済連携 (RCEP) 協定発効 (ドル高は止)</p> <p>2022年：中国、APECで帯路構想アピール (ドル高は止) → 新型コロナウイルスのパンデミック (ドル高は止)</p> <p>注：円相場は東京市場の月末終値 (日本銀行資料)</p> <p>世界と日本の貿易額 (兆ドル) の推移</p> <p>1945年から2022年までの世界と日本の貿易額 (兆ドル) の推移を示す。縦軸は0から50兆ドル、横軸は年を示す。青い線が世界の貿易額、赤い線が日本の貿易額である。</p>

番号	原文	訂正文																																																																																																																																																																																																								
	年 日本 内閣 世界	年 日本 内閣 世界																																																																																																																																																																																																								
43	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>日本</th> <th>内閣</th> <th>世界</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2000</td><td>(月) ①国会に憲法調査会設置 ⑨三宅島噴火で全島民避難</td><td>森喜朗 2000.4~01.4</td><td>(月) ⑥韓国と北朝鮮、南北首脳初会談</td></tr> <tr> <td>01</td><td>①中央省庁、1府12省庁へ再編 ⑥ハンセン病補償法成立 ⑪海上自衛隊インド洋派遣</td><td>小泉純一郎 2001.4~06.9</td><td>⑨米で同時多発テロ事件 ⑩米、英など、アフガニスタンへ軍事行動</td></tr> <tr> <td>02</td><td>⑨初の日朝首脳会談。北朝鮮、拉致事実認める</td><td></td><td>⑦アフリカ連合(AU)発足 ⑨持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク)</td></tr> <tr> <td>03</td><td>⑥有事法制関連3法成立</td><td></td><td>③イラク戦争 ⑧第1回6か国協議</td></tr> <tr> <td>04</td><td>①自衛隊イラク派遣 ⑤裁判員法成立 ⑥有事法制関連7法成立</td><td></td><td>⑤EU25か国に拡大 ⑫スマトラ島沖地震、津波で大被害</td></tr> <tr> <td>05</td><td>④JR西日本、尼崎で脱線事故 *日本の人口が減少に転じる</td><td></td><td>②京都議定書発効</td></tr> <tr> <td>06</td><td>⑤日米政府、在日米軍再編合意 ⑫教育基本法改正</td><td>安倍晋三 2006.9~07.9</td><td>⑦イスラエル、レバノンへ軍事行動 ⑩北朝鮮、核実験</td></tr> <tr> <td>07</td><td>⑤国民投票法成立</td><td>福田康夫 2007.9~08.9</td><td>②6か国協議、合意文書採択</td></tr> <tr> <td>08</td><td>④後期高齢者医療制度導入</td><td>麻生太郎 2008.9~09.9</td><td>⑧ロシア、グルジア(現ジョージア)に軍事侵攻 *世界金融危機</td></tr> <tr> <td>09</td><td>⑨民主党中央の連立政権成立</td><td>鳩山由紀夫 2009.9~2010.6</td><td>①米でオバマ大統領就任</td></tr> <tr> <td>10</td><td>⑦改正臓器移植法施行</td><td>菅直人 2010.6~11.9</td><td>④ギリシャ財政危機 ④メキシコ湾で原油流出事故</td></tr> <tr> <td>11</td><td>③東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故</td><td>野田佳彦 2011.9~12.12</td><td>*チュニジア、エジプト、リビアで独裁政権崩壊</td></tr> <tr> <td>12</td><td>⑧消費増税関連法成立 ⑫自民党中央の連立政権成立</td><td>安倍晋三 2012.12~20.9</td><td>⑪パレスチナ、国連総会決議で「オバザーバー国家」に昇格</td></tr> <tr> <td>13</td><td>⑦TPP交渉に正式参加 ⑫特定秘密保護法成立</td><td></td><td>⑪イラン核開発問題、計画縮小で合意</td></tr> <tr> <td>14</td><td>④消費税8%に引き上げ ⑦「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定</td><td></td><td>③ロシア、クリミア半島(ウクライナ)の編入を宣言</td></tr> <tr> <td>15</td><td>⑥選挙権年齢、18歳以上に引き下げ ⑨安全保障関連法成立</td><td></td><td>⑦アメリカとキューバ、国交回復 ⑫パリ協定採択</td></tr> <tr> <td>16</td><td>①マイナンバー制度発足 ②TPP調印</td><td></td><td>⑫アジアインフラ投資銀行(AIIB)発足 ⑥イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数</td></tr> <tr> <td>17</td><td>⑥「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立</td><td></td><td>①米でトランプ大統領就任 ⑦核兵器禁止条約、国連総会で採択</td></tr> <tr> <td>18</td><td>③TPP11協定調印</td><td></td><td>⑥米朝首脳初会談</td></tr> <tr> <td>19</td><td>④アイヌ施策推進法成立 ⑤元号「平成」から「令和」へ ⑩消費税10%に引き上げ</td><td></td><td>⑧INF全廃条約失効</td></tr> <tr> <td>20</td><td>④新型コロナで「緊急事態宣言」発令 ⑪地域的な包括的経済連携(RCEP)協定調印</td><td>菅義偉 2020.9~21.10</td><td>①イギリス、EU離脱 ③WHO、新型コロナ感染拡大を「パンデミック」と認定</td></tr> <tr> <td>21</td><td>⑦⑧東京オリンピック・パラリンピック競技大会</td><td>岸田文雄 2021.10~</td><td>②ミャンマー、軍事クーデタ ⑧米、アフガニスタンから完全撤退</td></tr> <tr> <td>22</td><td>④改正民法施行、成年年齢が18歳に</td><td></td><td>②ロシア、ウクライナに軍事侵攻 *世界人口80億人を突破</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>②ロシア、新STARTの履行停止を表明</td></tr> </tbody> </table>	年	日本	内閣	世界	2000	(月) ①国会に憲法調査会設置 ⑨三宅島噴火で全島民避難	森喜朗 2000.4~01.4	(月) ⑥韓国と北朝鮮、南北首脳初会談	01	①中央省庁、1府12省庁へ再編 ⑥ハンセン病補償法成立 ⑪海上自衛隊インド洋派遣	小泉純一郎 2001.4~06.9	⑨米で同時多発テロ事件 ⑩米、英など、アフガニスタンへ軍事行動	02	⑨初の日朝首脳会談。北朝鮮、拉致事実認める		⑦アフリカ連合(AU)発足 ⑨持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク)	03	⑥有事法制関連3法成立		③イラク戦争 ⑧第1回6か国協議	04	①自衛隊イラク派遣 ⑤裁判員法成立 ⑥有事法制関連7法成立		⑤EU25か国に拡大 ⑫スマトラ島沖地震、津波で大被害	05	④JR西日本、尼崎で脱線事故 *日本の人口が減少に転じる		②京都議定書発効	06	⑤日米政府、在日米軍再編合意 ⑫教育基本法改正	安倍晋三 2006.9~07.9	⑦イスラエル、レバノンへ軍事行動 ⑩北朝鮮、核実験	07	⑤国民投票法成立	福田康夫 2007.9~08.9	②6か国協議、合意文書採択	08	④後期高齢者医療制度導入	麻生太郎 2008.9~09.9	⑧ロシア、グルジア(現ジョージア)に軍事侵攻 *世界金融危機	09	⑨民主党中央の連立政権成立	鳩山由紀夫 2009.9~2010.6	①米でオバマ大統領就任	10	⑦改正臓器移植法施行	菅直人 2010.6~11.9	④ギリシャ財政危機 ④メキシコ湾で原油流出事故	11	③東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故	野田佳彦 2011.9~12.12	*チュニジア、エジプト、リビアで独裁政権崩壊	12	⑧消費増税関連法成立 ⑫自民党中央の連立政権成立	安倍晋三 2012.12~20.9	⑪パレスチナ、国連総会決議で「オバザーバー国家」に昇格	13	⑦TPP交渉に正式参加 ⑫特定秘密保護法成立		⑪イラン核開発問題、計画縮小で合意	14	④消費税8%に引き上げ ⑦「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定		③ロシア、クリミア半島(ウクライナ)の編入を宣言	15	⑥選挙権年齢、18歳以上に引き下げ ⑨安全保障関連法成立		⑦アメリカとキューバ、国交回復 ⑫パリ協定採択	16	①マイナンバー制度発足 ②TPP調印		⑫アジアインフラ投資銀行(AIIB)発足 ⑥イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数	17	⑥「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立		①米でトランプ大統領就任 ⑦核兵器禁止条約、国連総会で採択	18	③TPP11協定調印		⑥米朝首脳初会談	19	④アイヌ施策推進法成立 ⑤元号「平成」から「令和」へ ⑩消費税10%に引き上げ		⑧INF全廃条約失効	20	④新型コロナで「緊急事態宣言」発令 ⑪地域的な包括的経済連携(RCEP)協定調印	菅義偉 2020.9~21.10	①イギリス、EU離脱 ③WHO、新型コロナ感染拡大を「パンデミック」と認定	21	⑦⑧東京オリンピック・パラリンピック競技大会	岸田文雄 2021.10~	②ミャンマー、軍事クーデタ ⑧米、アフガニスタンから完全撤退	22	④改正民法施行、成年年齢が18歳に		②ロシア、ウクライナに軍事侵攻 *世界人口80億人を突破				②ロシア、新STARTの履行停止を表明	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>日本</th> <th>内閣</th> <th>世界</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2000</td><td>(月) ①国会に憲法調査会設置 ⑨三宅島噴火で全島民避難</td><td>森喜朗 2000.4~01.4</td><td>(月) ⑥韓国と北朝鮮、南北首脳初会談</td></tr> <tr> <td>01</td><td>①中央省庁、1府12省庁へ再編 ⑥ハンセン病補償法成立 ⑪海上自衛隊インド洋派遣</td><td>小泉純一郎 2001.4~06.9</td><td>⑨米で同時多発テロ事件 ⑩米、英など、アフガニスタンへ軍事行動</td></tr> <tr> <td>02</td><td>⑨初の日朝首脳会談。北朝鮮、拉致事実認める</td><td></td><td>⑦アフリカ連合(AU)発足 ⑨持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク)</td></tr> <tr> <td>03</td><td>⑥有事法制関連3法成立</td><td></td><td>③イラク戦争 ⑧第1回6か国協議</td></tr> <tr> <td>04</td><td>①自衛隊イラク派遣 ⑤裁判員法成立 ⑥有事法制関連7法成立</td><td></td><td>⑤EU25か国に拡大 ⑫スマトラ島沖地震、津波で大被害</td></tr> <tr> <td>05</td><td>④JR西日本、尼崎で脱線事故 *日本の人口が減少に転じる</td><td></td><td>②京都議定書発効</td></tr> <tr> <td>06</td><td>⑤日米政府、在日米軍再編合意 ⑫教育基本法改正</td><td>安倍晋三 2006.9~07.9</td><td>⑦イスラエル、レバノンへ軍事行動 ⑩北朝鮮、核実験</td></tr> <tr> <td>07</td><td>⑤国民投票法成立</td><td>福田康夫 2007.9~08.9</td><td>②6か国協議、合意文書採択</td></tr> <tr> <td>08</td><td>④後期高齢者医療制度導入</td><td>麻生太郎 2008.9~09.9</td><td>⑧ロシア、グルジア(現ジョージア)に軍事侵攻 *世界金融危機</td></tr> <tr> <td>09</td><td>⑨民主党中央の連立政権成立</td><td>鳩山由紀夫 2009.9~2010.6</td><td>①米でオバマ大統領就任</td></tr> <tr> <td>10</td><td>⑦改正臓器移植法施行</td><td>菅直人 2010.6~11.9</td><td>④ギリシャ財政危機 ④メキシコ湾で原油流出事故</td></tr> <tr> <td>11</td><td>③東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故</td><td>野田佳彦 2011.9~12.12</td><td>*チュニジア、エジプト、リビアで独裁政権崩壊</td></tr> <tr> <td>12</td><td>⑧消費増税関連法成立 ⑫自民党中央の連立政権成立</td><td>安倍晋三 2012.12~20.9</td><td>⑪パレスチナ、国連総会決議で「オバザーバー国家」に昇格</td></tr> <tr> <td>13</td><td>⑦TPP交渉に正式参加 ⑫特定秘密保護法成立</td><td></td><td>⑪イラン核開発問題、計画縮小で合意</td></tr> <tr> <td>14</td><td>④消費税8%に引き上げ ⑦「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定</td><td></td><td>③ロシア、クリミア半島(ウクライナ)の編入を宣言</td></tr> <tr> <td>15</td><td>⑥選挙権年齢、18歳以上に引き下げ ⑨安全保障関連法成立</td><td></td><td>⑦アメリカとキューバ、国交回復 ⑫パリ協定採択</td></tr> <tr> <td>16</td><td>①マイナンバー制度発足 ②TPP調印</td><td></td><td>⑫アジアインフラ投資銀行(AIIB)発足 ⑥イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数</td></tr> <tr> <td>17</td><td>⑥「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立</td><td></td><td>①米でトランプ大統領就任 ⑦核兵器禁止条約、国連総会で採択</td></tr> <tr> <td>18</td><td>③TPP11協定調印</td><td></td><td>⑥米朝首脳初会談</td></tr> <tr> <td>19</td><td>④アイヌ施策推進法成立 ⑤元号「平成」から「令和」へ ⑩消費税10%に引き上げ</td><td></td><td>⑧INF全廃条約失効</td></tr> <tr> <td>20</td><td>④新型コロナで「緊急事態宣言」発令 ⑪地域的な包括的経済連携(RCEP)協定調印</td><td>菅義偉 2020.9~21.10</td><td>①イギリス、EU離脱 ③WHO、新型コロナ感染拡大を「パンデミック」と認定</td></tr> <tr> <td>21</td><td>⑦⑧東京オリンピック・パラリンピック競技大会</td><td>岸田文雄 2021.10~</td><td>②ミャンマー、軍事クーデタ ⑧米、アフガニスタンから完全撤退</td></tr> <tr> <td>22</td><td>④改正民法施行、成年年齢が18歳に</td><td></td><td>②ロシア、ウクライナに軍事侵攻 *世界人口80億人を突破</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>②ロシア、新STARTの履行停止を表明</td></tr> </tbody> </table>	年	日本	内閣	世界	2000	(月) ①国会に憲法調査会設置 ⑨三宅島噴火で全島民避難	森喜朗 2000.4~01.4	(月) ⑥韓国と北朝鮮、南北首脳初会談	01	①中央省庁、1府12省庁へ再編 ⑥ハンセン病補償法成立 ⑪海上自衛隊インド洋派遣	小泉純一郎 2001.4~06.9	⑨米で同時多発テロ事件 ⑩米、英など、アフガニスタンへ軍事行動	02	⑨初の日朝首脳会談。北朝鮮、拉致事実認める		⑦アフリカ連合(AU)発足 ⑨持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク)	03	⑥有事法制関連3法成立		③イラク戦争 ⑧第1回6か国協議	04	①自衛隊イラク派遣 ⑤裁判員法成立 ⑥有事法制関連7法成立		⑤EU25か国に拡大 ⑫スマトラ島沖地震、津波で大被害	05	④JR西日本、尼崎で脱線事故 *日本の人口が減少に転じる		②京都議定書発効	06	⑤日米政府、在日米軍再編合意 ⑫教育基本法改正	安倍晋三 2006.9~07.9	⑦イスラエル、レバノンへ軍事行動 ⑩北朝鮮、核実験	07	⑤国民投票法成立	福田康夫 2007.9~08.9	②6か国協議、合意文書採択	08	④後期高齢者医療制度導入	麻生太郎 2008.9~09.9	⑧ロシア、グルジア(現ジョージア)に軍事侵攻 *世界金融危機	09	⑨民主党中央の連立政権成立	鳩山由紀夫 2009.9~2010.6	①米でオバマ大統領就任	10	⑦改正臓器移植法施行	菅直人 2010.6~11.9	④ギリシャ財政危機 ④メキシコ湾で原油流出事故	11	③東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故	野田佳彦 2011.9~12.12	*チュニジア、エジプト、リビアで独裁政権崩壊	12	⑧消費増税関連法成立 ⑫自民党中央の連立政権成立	安倍晋三 2012.12~20.9	⑪パレスチナ、国連総会決議で「オバザーバー国家」に昇格	13	⑦TPP交渉に正式参加 ⑫特定秘密保護法成立		⑪イラン核開発問題、計画縮小で合意	14	④消費税8%に引き上げ ⑦「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定		③ロシア、クリミア半島(ウクライナ)の編入を宣言	15	⑥選挙権年齢、18歳以上に引き下げ ⑨安全保障関連法成立		⑦アメリカとキューバ、国交回復 ⑫パリ協定採択	16	①マイナンバー制度発足 ②TPP調印		⑫アジアインフラ投資銀行(AIIB)発足 ⑥イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数	17	⑥「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立		①米でトランプ大統領就任 ⑦核兵器禁止条約、国連総会で採択	18	③TPP11協定調印		⑥米朝首脳初会談	19	④アイヌ施策推進法成立 ⑤元号「平成」から「令和」へ ⑩消費税10%に引き上げ		⑧INF全廃条約失効	20	④新型コロナで「緊急事態宣言」発令 ⑪地域的な包括的経済連携(RCEP)協定調印	菅義偉 2020.9~21.10	①イギリス、EU離脱 ③WHO、新型コロナ感染拡大を「パンデミック」と認定	21	⑦⑧東京オリンピック・パラリンピック競技大会	岸田文雄 2021.10~	②ミャンマー、軍事クーデタ ⑧米、アフガニスタンから完全撤退	22	④改正民法施行、成年年齢が18歳に		②ロシア、ウクライナに軍事侵攻 *世界人口80億人を突破				②ロシア、新STARTの履行停止を表明
年	日本	内閣	世界																																																																																																																																																																																																							
2000	(月) ①国会に憲法調査会設置 ⑨三宅島噴火で全島民避難	森喜朗 2000.4~01.4	(月) ⑥韓国と北朝鮮、南北首脳初会談																																																																																																																																																																																																							
01	①中央省庁、1府12省庁へ再編 ⑥ハンセン病補償法成立 ⑪海上自衛隊インド洋派遣	小泉純一郎 2001.4~06.9	⑨米で同時多発テロ事件 ⑩米、英など、アフガニスタンへ軍事行動																																																																																																																																																																																																							
02	⑨初の日朝首脳会談。北朝鮮、拉致事実認める		⑦アフリカ連合(AU)発足 ⑨持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク)																																																																																																																																																																																																							
03	⑥有事法制関連3法成立		③イラク戦争 ⑧第1回6か国協議																																																																																																																																																																																																							
04	①自衛隊イラク派遣 ⑤裁判員法成立 ⑥有事法制関連7法成立		⑤EU25か国に拡大 ⑫スマトラ島沖地震、津波で大被害																																																																																																																																																																																																							
05	④JR西日本、尼崎で脱線事故 *日本の人口が減少に転じる		②京都議定書発効																																																																																																																																																																																																							
06	⑤日米政府、在日米軍再編合意 ⑫教育基本法改正	安倍晋三 2006.9~07.9	⑦イスラエル、レバノンへ軍事行動 ⑩北朝鮮、核実験																																																																																																																																																																																																							
07	⑤国民投票法成立	福田康夫 2007.9~08.9	②6か国協議、合意文書採択																																																																																																																																																																																																							
08	④後期高齢者医療制度導入	麻生太郎 2008.9~09.9	⑧ロシア、グルジア(現ジョージア)に軍事侵攻 *世界金融危機																																																																																																																																																																																																							
09	⑨民主党中央の連立政権成立	鳩山由紀夫 2009.9~2010.6	①米でオバマ大統領就任																																																																																																																																																																																																							
10	⑦改正臓器移植法施行	菅直人 2010.6~11.9	④ギリシャ財政危機 ④メキシコ湾で原油流出事故																																																																																																																																																																																																							
11	③東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故	野田佳彦 2011.9~12.12	*チュニジア、エジプト、リビアで独裁政権崩壊																																																																																																																																																																																																							
12	⑧消費増税関連法成立 ⑫自民党中央の連立政権成立	安倍晋三 2012.12~20.9	⑪パレスチナ、国連総会決議で「オバザーバー国家」に昇格																																																																																																																																																																																																							
13	⑦TPP交渉に正式参加 ⑫特定秘密保護法成立		⑪イラン核開発問題、計画縮小で合意																																																																																																																																																																																																							
14	④消費税8%に引き上げ ⑦「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定		③ロシア、クリミア半島(ウクライナ)の編入を宣言																																																																																																																																																																																																							
15	⑥選挙権年齢、18歳以上に引き下げ ⑨安全保障関連法成立		⑦アメリカとキューバ、国交回復 ⑫パリ協定採択																																																																																																																																																																																																							
16	①マイナンバー制度発足 ②TPP調印		⑫アジアインフラ投資銀行(AIIB)発足 ⑥イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数																																																																																																																																																																																																							
17	⑥「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立		①米でトランプ大統領就任 ⑦核兵器禁止条約、国連総会で採択																																																																																																																																																																																																							
18	③TPP11協定調印		⑥米朝首脳初会談																																																																																																																																																																																																							
19	④アイヌ施策推進法成立 ⑤元号「平成」から「令和」へ ⑩消費税10%に引き上げ		⑧INF全廃条約失効																																																																																																																																																																																																							
20	④新型コロナで「緊急事態宣言」発令 ⑪地域的な包括的経済連携(RCEP)協定調印	菅義偉 2020.9~21.10	①イギリス、EU離脱 ③WHO、新型コロナ感染拡大を「パンデミック」と認定																																																																																																																																																																																																							
21	⑦⑧東京オリンピック・パラリンピック競技大会	岸田文雄 2021.10~	②ミャンマー、軍事クーデタ ⑧米、アフガニスタンから完全撤退																																																																																																																																																																																																							
22	④改正民法施行、成年年齢が18歳に		②ロシア、ウクライナに軍事侵攻 *世界人口80億人を突破																																																																																																																																																																																																							
			②ロシア、新STARTの履行停止を表明																																																																																																																																																																																																							
年	日本	内閣	世界																																																																																																																																																																																																							
2000	(月) ①国会に憲法調査会設置 ⑨三宅島噴火で全島民避難	森喜朗 2000.4~01.4	(月) ⑥韓国と北朝鮮、南北首脳初会談																																																																																																																																																																																																							
01	①中央省庁、1府12省庁へ再編 ⑥ハンセン病補償法成立 ⑪海上自衛隊インド洋派遣	小泉純一郎 2001.4~06.9	⑨米で同時多発テロ事件 ⑩米、英など、アフガニスタンへ軍事行動																																																																																																																																																																																																							
02	⑨初の日朝首脳会談。北朝鮮、拉致事実認める		⑦アフリカ連合(AU)発足 ⑨持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク)																																																																																																																																																																																																							
03	⑥有事法制関連3法成立		③イラク戦争 ⑧第1回6か国協議																																																																																																																																																																																																							
04	①自衛隊イラク派遣 ⑤裁判員法成立 ⑥有事法制関連7法成立		⑤EU25か国に拡大 ⑫スマトラ島沖地震、津波で大被害																																																																																																																																																																																																							
05	④JR西日本、尼崎で脱線事故 *日本の人口が減少に転じる		②京都議定書発効																																																																																																																																																																																																							
06	⑤日米政府、在日米軍再編合意 ⑫教育基本法改正	安倍晋三 2006.9~07.9	⑦イスラエル、レバノンへ軍事行動 ⑩北朝鮮、核実験																																																																																																																																																																																																							
07	⑤国民投票法成立	福田康夫 2007.9~08.9	②6か国協議、合意文書採択																																																																																																																																																																																																							
08	④後期高齢者医療制度導入	麻生太郎 2008.9~09.9	⑧ロシア、グルジア(現ジョージア)に軍事侵攻 *世界金融危機																																																																																																																																																																																																							
09	⑨民主党中央の連立政権成立	鳩山由紀夫 2009.9~2010.6	①米でオバマ大統領就任																																																																																																																																																																																																							
10	⑦改正臓器移植法施行	菅直人 2010.6~11.9	④ギリシャ財政危機 ④メキシコ湾で原油流出事故																																																																																																																																																																																																							
11	③東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故	野田佳彦 2011.9~12.12	*チュニジア、エジプト、リビアで独裁政権崩壊																																																																																																																																																																																																							
12	⑧消費増税関連法成立 ⑫自民党中央の連立政権成立	安倍晋三 2012.12~20.9	⑪パレスチナ、国連総会決議で「オバザーバー国家」に昇格																																																																																																																																																																																																							
13	⑦TPP交渉に正式参加 ⑫特定秘密保護法成立		⑪イラン核開発問題、計画縮小で合意																																																																																																																																																																																																							
14	④消費税8%に引き上げ ⑦「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定		③ロシア、クリミア半島(ウクライナ)の編入を宣言																																																																																																																																																																																																							
15	⑥選挙権年齢、18歳以上に引き下げ ⑨安全保障関連法成立		⑦アメリカとキューバ、国交回復 ⑫パリ協定採択																																																																																																																																																																																																							
16	①マイナンバー制度発足 ②TPP調印		⑫アジアインフラ投資銀行(AIIB)発足 ⑥イギリス、国民投票でEU離脱派が賛成多数																																																																																																																																																																																																							
17	⑥「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法成立		①米でトランプ大統領就任 ⑦核兵器禁止条約、国連総会で採択																																																																																																																																																																																																							
18	③TPP11協定調印		⑥米朝首脳初会談																																																																																																																																																																																																							
19	④アイヌ施策推進法成立 ⑤元号「平成」から「令和」へ ⑩消費税10%に引き上げ		⑧INF全廃条約失効																																																																																																																																																																																																							
20	④新型コロナで「緊急事態宣言」発令 ⑪地域的な包括的経済連携(RCEP)協定調印	菅義偉 2020.9~21.10	①イギリス、EU離脱 ③WHO、新型コロナ感染拡大を「パンデミック」と認定																																																																																																																																																																																																							
21	⑦⑧東京オリンピック・パラリンピック競技大会	岸田文雄 2021.10~	②ミャンマー、軍事クーデタ ⑧米、アフガニスタンから完全撤退																																																																																																																																																																																																							
22	④改正民法施行、成年年齢が18歳に		②ロシア、ウクライナに軍事侵攻 *世界人口80億人を突破																																																																																																																																																																																																							
			②ロシア、新STARTの履行停止を表明																																																																																																																																																																																																							